

研究 5-2

放課後児童支援員等に求められる専門性及び資質向上のあり方・児童クラブ調査 C-1 票及び C-2 票のまとめと詳細分析

社会福祉法人葛葉学園

鈴木 勲

5-1. C-1 票及び C-2 票のまとめ

調査 C-1 票は、放課後児童クラブを利用する低学年児童の状況を明らかにするため、自治体を經由して配布された放課後児童クラブ利用児童を対象に 2261 部の調査票を配布し、回収数は、1085 部、回収率は 47.9%であった。

調査 C-1 票は児童クラブに通う低学年児童を対象とした調査である。回答者の学年は 3 年生の割合が 40.7%で最も高く、2 年生が 36.8%、1 年生が 22.5%であった(1-1)。性別は女子が 60.2%であった(1-2)。いつから児童クラブに通っていたかを聞いたところ、1 年生の割合が 93.0%で最も高くほぼ全児童が 1 年生より児童クラブに通っていた(1-3)。児童クラブで日ごろどのような過ごし方をしているか聞いたところ、「お部屋で遊ぶ(91.4%)」、「宿題(87.9%)」、「おやつ(79.0%)」、「外遊び(71.2%)」が 70%を超え、児童は室内外でバランスのとれた過ごし方をしていることがわかった(2-1)。この傾向は高学年でも同様であった(調査 C-2 票参照)。児童クラブに友達がいるか否かを聞いたところ、ほぼ 100%の児童がいると回答した。ほぼすべての児童は他の児童と友好関係が構築できているようである(2-2)。児童クラブの現状について、77.8%の児童が「楽しい」と回答していた。「ふつう」は 20.8%を占め、児童クラブに対して明らかな不満をもつ児童はいないことがわかった(2-3)。この傾向は高学年でも同様であった(調査 C-2 票参照)。児童クラブで困っていることがあるか否かを聞いたところ「ある」と回答した児童の割合は 9.4%であった(2-3)。この割合は高学年児童の 21.6%より低かった(調査 C-2 票参照)。先生(職員)の対応について、「普段、お友達とケンカしたときや困っていることがあると、先生

(職員)は、あなたの話を聞いてくれますか?(2-5)、「聞いてくれる」と「ふつう」の合計)、「先生(職員)は、宿題や勉強を教えてくださいませんか?(2-6)」、「あなたやお友達が悪いことをしたとき、先生は、ちゃんと注意してくれますか?(2-7)」、「お友達や、年上の子にイヤなことをされたり、言われたとき、先生は助けてくれますか?(2-8)」、「先生(職員)は、ケガをしたり、体調が悪いとき、きちんと手当をしてくれますか?(2-9)」はすべて「対応してくれる」と回答した児童の割合が 90%の水準に達し、職員が児童に真摯に対応していることが確認された。「先生にしてほしいことがあるか否かを聞いたところ、「ある」と回答した児童の割合は 22.4%であった(2-10)。具体的にどんなことをしてほしいかの上位 3 位は「もっといっしょに遊んでほしい(39.4%)」、「もっといけないことや悪いことをした子に注意してほしい(31.1%)」、「もっとも勉強を教えてください(23.4%)」であった(2-11)。この 3 項目は高学年も同様に上位であり、一部ではあるものの職員は彼らの中に彼らへの対応に対して最良や不平等感を感じている児童がいることに留意する必要がある(調査 C-2 票参照)。また「もっとも勉強を教えてください」というニーズに対して、学習意欲が高い児童への学習支援体制の構築が求められる。これは高学年児童でも同様である。児童クラブでどんなことをしたいか聞いたところ、上位 3 位は「外遊び(58.6%)」、「ゲーム(46.3%)」、「料理(37.6%)」であった。「外遊び」を選択した児童の割合は過半数を超えたが、その他の項目の割合は比較的拮抗しており、児童は多様なニーズをもつことが明らかになった(2-12)。現在通う児童クラブへの満足度を 100 点満点で聞いたところ、中央値は 99 点、87 から 100 点が半数を

占めた。児童の児童クラブへの満足度は概ね良好といえる (2-13)。

また、調査 C-2 票では、放課後児童クラブに通う高学年児童の状況を明らかにするため、調査の対象は、小学 4 年～小学 5 年までの高学年の児童を対象にし、2261 部の調査票を配布して、994 部を回収し回収率は 43.9%であった。

調査 C-2 票は児童クラブに通う高学年児童を対象とした調査であり、回答者の学年は 4 年生の割合が 55.6%で最も高かった (1-1)。性別は女子が 61.9%であった (1-2)。いつから児童クラブに通っていたかを聞いたところ、1 年生の割合が 29.3%で最も高く、次が 4 年生で 28.7%であった。一方、2 年生、3 年生は数パーセントに過ぎなかった。児童クラブは 1 年生時、4 年生時から利用開始する児童が多いようである (1-3)。児童クラブで日ごろどのような過ごし方をしているか聞いたところ、「お部屋で遊ぶ (87.2%)」、「宿題 (86.7%)」、「おやつ (74.4%)」が 70%を超えた。いずれも室内活動であるが、「外遊び」も 67.2%に達し、室内外バランスのとれた過ごし方をしていることがわかった (2-1)。この傾向は低学年でも同様であった (調査 C-1 票参照)。児童クラブ内に友達がいるか否かを聞いたところ、ほぼ全児童がいると回答した。児童クラブに通うほぼ全児童は他の児童との友好関係を構築できているようである (2-2)。児童クラブの現状について、63.3%の児童が「楽しい」と回答していた。「ふつう」は 33.6%を占め、児童クラブに対して明らかな不満をもつ児童はいないことが明らかになった (2-3)。児童クラブで困っていることがあるか否かを聞いたところ「ある」と回答した児童の割合は 21.6%であった (2-3)。その困っていることの上位 3 位は「部屋がうるさい (56.3%)」、「遊ぶ場所が狭い (34.9%)」、「ルール (決まり事) が多い (23.7%)」であった。部屋の拡張や防音対策、またルール簡素化などへの対策が求められる (2-4-2)。先生 (職員) の対応について、「普段、お友達とケンカしたときや困っていることがあると、先生 (職員) は、あなたの話を聞いてくれますか? (2-5)」、「先生 (職員) は、宿

題や勉強を教えてくださいませんか? (2-6)」、「あなたやお友達が悪いことをしたとき、先生は、ちゃんと注意してくれますか? (2-7)」、「お友達や、年上の子にイヤなことをされたり、言われたとき、先生は助けてくれますか? (2-8)」、「先生 (職員) は、ケガをしたり、体調が悪いとき、きちんと手当をしてくれますか? (2-9)」はすべて「対応してくれる」と回答した児童の割合が 90%の水準に達し、職員は児童に真摯に対応していることが確認された。「先生にしてほしいことがあるか否かを聞いたところ、「ある」と回答した児童の割合が 20.9%であった (2-10)。具体的にどんなことをしてほしいかの上位 3 位は「もっといけないことや悪いことをした子に注意してほしい (51.4%)」、「もっと一緒に遊んでほしい (30.3%)」、「もっとも勉強を教えてください (24.0%)」であった (2-11)。この 3 項目は低学年も同様に上位であり、一部の児童ではあるものの職員は彼らの中に彼らへの対応に対して最良や不平等感を感じている児童がいることに留意する必要がある。また「もっとも勉強を教えてください」というニーズに対して、学習意欲が高い児童への学習支援体制の構築が求められる。これは低学年児童でも同様である。現在通う児童クラブへの満足度を 100 点満点で聞いたところ、中央値は 90 点、80 から 100 点の児童が半数を占めた。児童の児童クラブへの満足度は概ね良好といえる (2-12)。

5-2. 放課後児童クラブを利用する児童の満足度を高める要因について

(調査 C 票の放課後児童クラブに通う児童に関する分析)

満足度と児童への対応との関係を Table 5-1-1 から Table 5-1-5 に示す。満足度とすべての児童への対応に有意な関係が認められた。「質問⑤お友達とケンカしたり、困っていることがあると、先生 (職員) は、お話を聞いてくれますか?」は、話を聞いてくれると感じている児童ほど満足度の中央値が高かった。

Table 5-1-1 質問⑤と満足度の関係

		質問⑤お友だちとケンカしたり、困っていることがあると、先生(職員)は、お話を聞いてくれますか？												
		聞いてくれる				ふつう				聞いてくれない				P値
		n	中央値	25%点	75%点	n	中央値	25%点	75%点	n	中央値	25%点	75%点	
児童の放課後児童クラブ	低学年	784	100	90	100	213	90	70	99	10	73	42.3	79.3	<0.001
満足度(100点満点)	高学年	917	90	80	100	31	66	44.5	81.25	0	-	-	-	<0.001

※Kruskal Wallis 検定

「質問⑥先生(職員)は、宿題やお勉強を教えてくださいか？」は「教えてくれる」と回答した児童が「教えてくれない」と回答した児童より満足度の中央値が有意に高かった。

Table 5-1-2 質問⑥と満足度の関係

		質問⑥先生(職員)は、宿題やお勉強を教えてくださいか？								
		教えてくれる				教えてくれない				P値
		n	中央値	25%点	75%点	n	中央値	25%点	75%点	
児童の放課後児童クラブ	低学年	901	99	90	100	99	90	70	100	<0.001
満足度(100点満点)	高学年	867	94	80	100	87	80	60	90	<0.001

※Mann-Whitney U検定

「質問⑦あなたやお友だちが悪いことをしたとき、先生(職員)は、ちゃんと注意してくれますか？」は「注意してくれる」と回答した児童が「注意してくれない」と回答した児童より満足度の中央値が有意に高かった。

Table 5-1-3 質問⑦と満足度の関係

		質問⑦あなたやお友だちが悪いことをしたとき、先生(職員)は、ちゃんと注意してくれますか？								
		注意してくれる				注意してくれない				P値
		n	中央値	25%点	75%点	n	中央値	25%点	75%点	
児童の放課後児童クラブ	低学年	986	99	89.8	100	21	80	55	94.5	<0.001
満足度(100点満点)	高学年	943	90	80	100	15	60	30	82.5	<0.001

※Mann-Whitney U検定

「質問⑧お友だちや、年上のお兄さん、お姉さんに、イヤなことをされたり、いわれたとき、先生(職員)は助けてくれますか？」は「助けてくれる」と回答した児童が「助けてくれない」と回答した児童より満足度の中央値が有意に高かった。

Table 5-1-4 質問⑧と満足度の関係

		質問⑧お友だちや、年上のお兄さん、お姉さんに、イヤなことをされたり、いわれたとき、先生(職員)は助けてくれますか？								
		助けてくれる				助けてくれない				P値
		n	中央値	25%点	75%点	n	中央値	25%点	75%点	
児童の放課後児童クラブ	低学年	917	99	90	100	49	90	61.5	100	<0.001
満足度(100点満点)	高学年	886	90	80	100	41	72.5	47	83.8	<0.001

※Mann-Whitney U検定

「質問⑨先生（職員）は、ケガをしたり、しんどいとき、ちゃんと手当をしてくれますか？」は「してくれる」と回答した児童が「してくれない」と回答した児童より満足度の中央値が有意に高かった。

Table 5-1-5 質問⑨と満足度の関係

		質問⑨先生(職員)は、ケガをしたり、しんどいとき、ちゃんと手当をしてくれますか？								
		してくれる				してくれない				
		n	中央値	25%点	75%点	n	中央値	25%点	75%点	P値
児童の放課後児童クラブ	低学年	997	99	89	100	8	83	50	97.5	0.038
満足度(100点満点)	高学年	944	90	80	100	10	80	37.5	86	<0.001

※Mann-Whitney U検定

以上の分析結果から職員の対応がよいと感じている児童ほど満足度が高く、満足度を高めるためには児童により真摯に向き合い対応することの重要性が示された。そして、各群の n 数から児童の 90% 以上は職員がこれらの対応を実施してくれていると回答し、職員の児童に対する対応に現状大きな問題はないといえる。

5-3. 放課後児童クラブの事業方針、研修状況〈調査 A 票〉と児童の放課後児童クラブ満足度

(低学年)〈調査 C-1 票〉、児童の放課後児童クラブ満足度(高学年)〈調査 C-2 票〉の関係

放課後児童クラブの事業方針、研修状況と児童の放課後児童クラブ満足度(低学年)、児童の放課後児童クラブ満足度(高学年)の関係を明らかにするため、因子分析にて抽出した放課後児童クラブの事

業方針、研修状況に関する 3 因子(職員間の信頼協力度、人材育成力、方針目標浸透度)〈調査 A 票〉と児童クラブ満足度(低学年)〈調査 C-1 票〉、児童クラブ満足度(高学年)〈調査 C-2 票〉との関係を Spearman 順位相関係数にて検証し、無相関検定を適用した。

分析の結果、各項目間の関係を Table 5-1-6 に示した。職員間の信頼協力度と高学年児童の満足度に有意な正の相関が認められた。しかし、Spearman 順位相関係数は 0.1 未満であり、関係は弱かった。関係が弱かったのは、Figure 5-1-3 に示したように大部分の児童の満足度は 80 点をこえ、バラつきが小さく、統計的に相関が検出されにくかったことが理由の 1 つと考えられる。相関は認められなかったが、児童の放課後児童クラブに対する満足度自体は全体的に高い。

Table 5-1-6 児童クラブの組織力と児童の満足度との関係

A20 児童クラブの事業方針や現状、研修状況〈調査 A〉	放課後児童クラブの満足度〈調査 C-1、調査 C-2〉					
	低学年			高学年		
	n	ρ	P値	n	ρ	P値
職員間の信頼協力度	677	0.026	0.502	656	0.096	0.014
人材育成力	677	-0.022	0.574	656	-0.048	0.220
方針目標浸透度	677	-0.038	0.321	656	0.017	0.662

ρ : Spearman 順位相関係数

5-4. OJT 実施頻度〈調査 A 票〉と児童の放課後児童クラブ満足度（低学年）〈調査 C-1 票〉、児童の放課後児童クラブ満足度（高学年）〈調査 C-2 票〉の関係

OJT 実施頻度と児童の放課後児童クラブ満足度（低学年）、児童の放課後児童クラブ満足度（高学年）の関係を明らかにするため、「A9. 平成 29 年度に貴放課後児童クラブでは、従業員に対して、職場内の教育訓練（OJT）を実施しましたか。」の「A10. ①頻度（年間）」〈調査 A〉と「2-13. 今いる放課後児童クラブ（学童）での満足度は、100 満点でいうと何点ですか？」（低学年）、「2-12. 今いる放課後児童クラブ（学童）での満足度は、100 満点でいうと何点ですか？」（高学年）の関係を散布図にて視覚的に検証、Spearman 順位相関係数を算出し、無相

関検定を適用した。

分析の結果から、OJT 実施頻度と放課後児童クラブ満足度（低学年）の関係を Figure 5-1-1、OJT 実施頻度と放課後児童クラブ満足度（高学年）の関係を Figure 5-1-2 に示した。Spearman 順位相関係数は、低学年で -0.069 ($P=0.210$)、高学年で -0.001 ($P=0.989$) でともに有意な相関は認められなかった。相関が認められなかった理由の 1 つは、Figure 5-1-3 に示すように児童の満足度は大部分が 80 点をこえ、100 点近辺に集中、バラつきが小さく、統計的な相関に関する感度が小さかったからと考えられる。以上の理由により相関は認められなかったが、児童の放課後児童クラブに対する満足度自体は全体的に高いことがわかった。

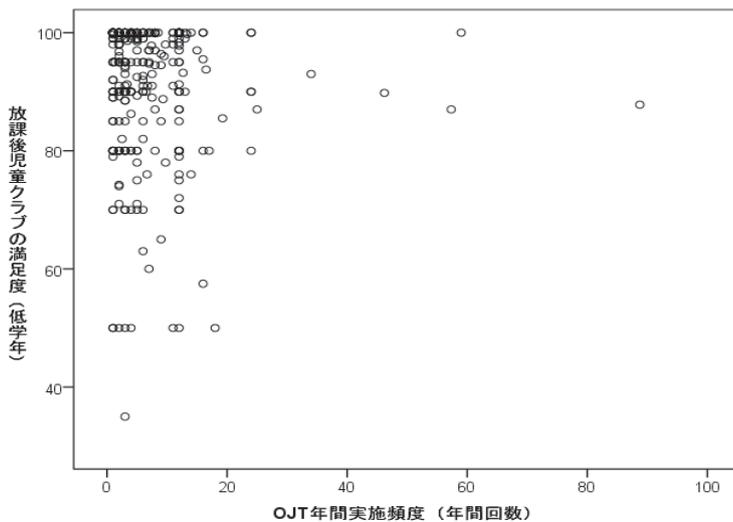


Figure 5-1-1 OJT 実施頻度と児童クラブ満足度（低学年）の関係

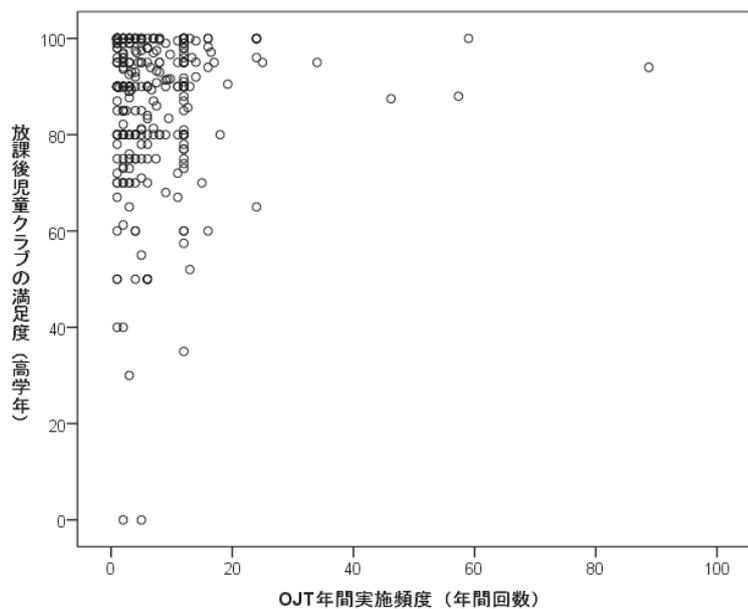


Figure 5-1-2 OJT 実施頻度と児童クラブ満足度（高学年）の関係

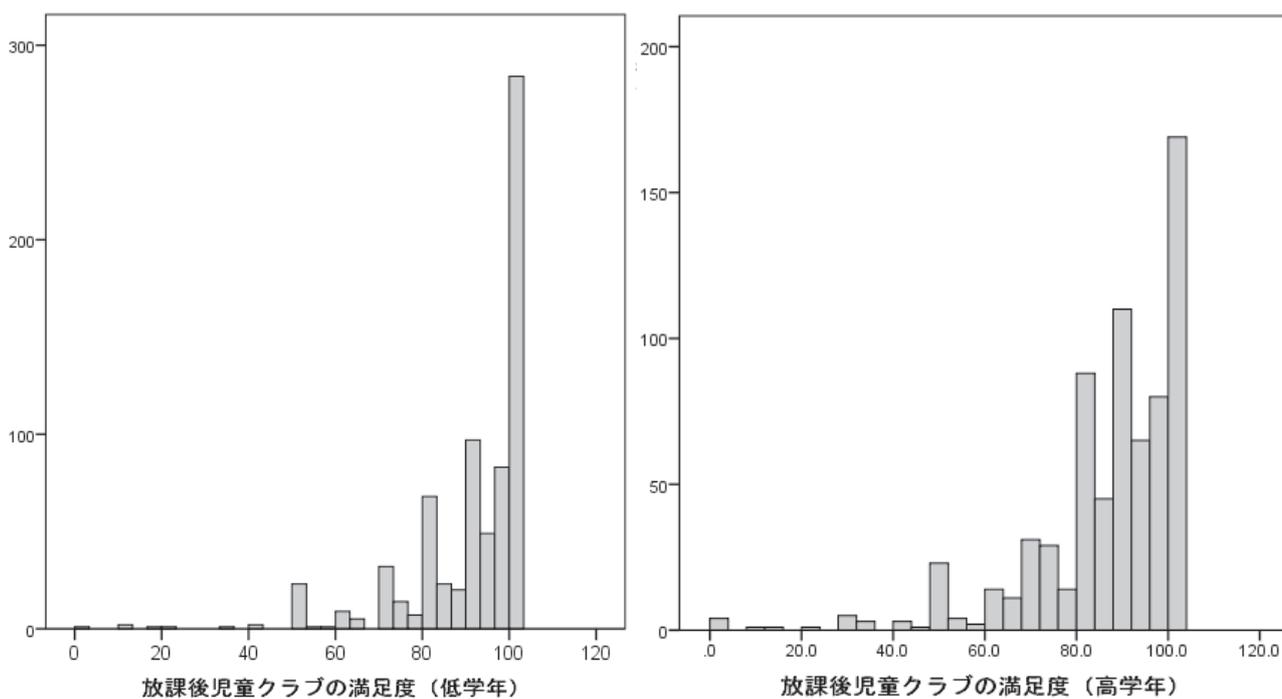


Figure 5-1-3 児童クラブ満足度 低学年と高学年の分布

研究 6

放課後児童クラブを利用する保護者の児童クラブへの認識に関する現状分析

社会福祉法人葛葉学園

鈴木 勲

調査D票では、放課後児童クラブを利用する保護者の児童クラブへの認識に関する現状を分析するため、調査対象を放課後児童クラブに通う児童の保護者とし、4522部の調査票を配布した。回収数は1960部、回収率は43.3%であった。

各項目の単純集計結果は次のとおりである。

A1では、普段、お子様が放課後児童クラブを利用して感じている事柄について尋ねた。1.「安心して預けられますか」は、あてはまる78.3%、ややあてはまる20.3%、あまりあてはまらない0.9%であった。9割以上の保護者が安心して児童を放課後児童クラブに預けていることが示された。

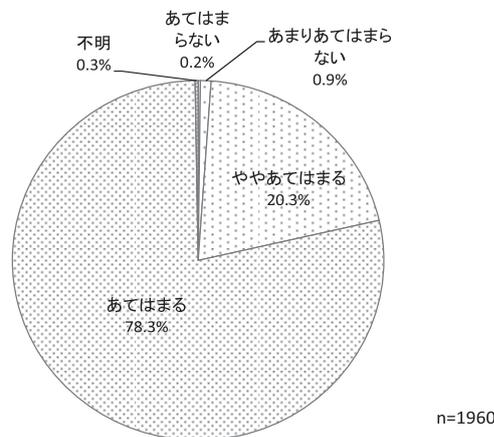


Figure 6-1 子どもを安心して預けられますか

2.「放課後児童支援員等の名前と顔を覚えられましたか」を尋ねたところ、あてはまる44.0%、ややあてはまる38.1%、あまりあてはまらない14.9%で

あった。8割が児童が利用している放課後児童支援員等の名前と顔を覚えている等、距離感の近さが窺えた。

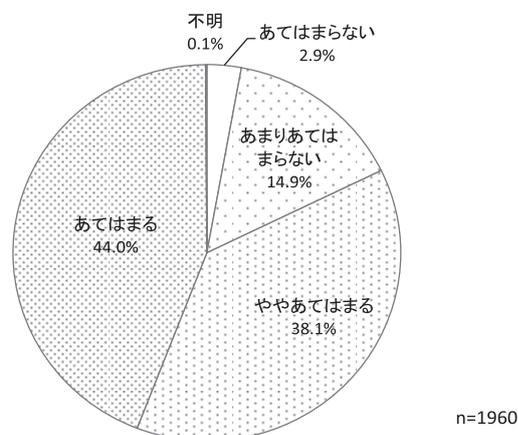


Figure 6-2 放課後児童支援員等の名前と顔を覚えられましたか

3. 「放課後児童支援員等は、明るく気持ちが良いですか」は、Figure 6-3 のとおり、あてはまる 71.5%、ややあてはまる 25.4%、あまりあてはまらない 2.6% であった。あてはまる、ややあてはまるが 9 割以上で、放課後児童支援員等に対する保護者の印象がよいことが示された。

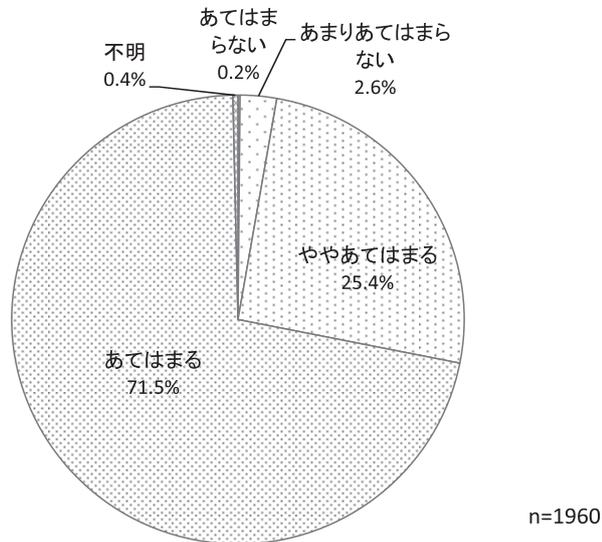


Figure 6-3 放課後児童支援員等は、明るく気持ちが良いですか

4. 「個人情報やプライバシーの配慮」について 60.8%、ややあてはまる 34.1%、あまりあてはまらない 3.9% と続いている。Figure 6-4 のとおり、あてはまる

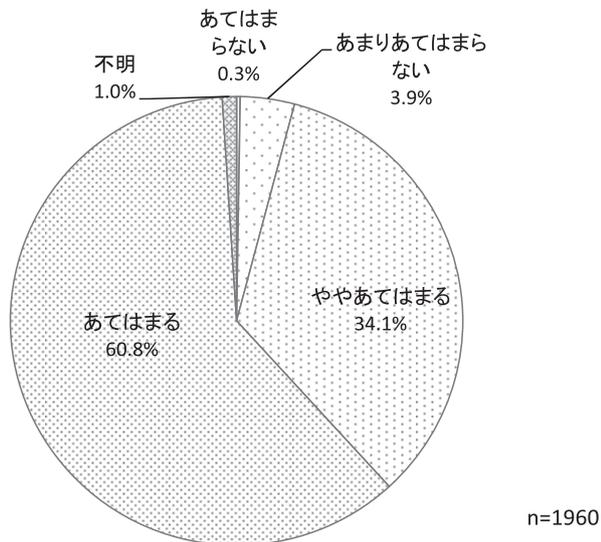


Figure 6-4 個人情報やプライバシーに配慮されていますか

5. 「子どもの様子を連絡帳やお便りなどで十分情報が伝えられていますか」を尋ねたところ、あてはまる 41.9%、ややあてはまる 36.7%、あまりあてはまらない 16.4%、あてはまらない 4.5%、不明 0.4%であった。

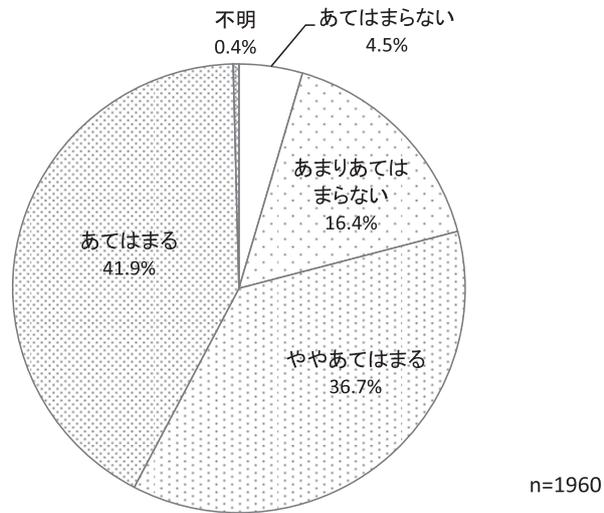


Figure 6-5 子どもの様子を連絡帳やお便りなどで十分情報が伝えられていますか

6. 「子育てについて相談できますか」を尋ねたところ、あてはまる 38.9%、ややあてはまる 35.2%、あまりあてはまらない 20.2%、あてはまらない 5.4%、不明 0.4%であった。

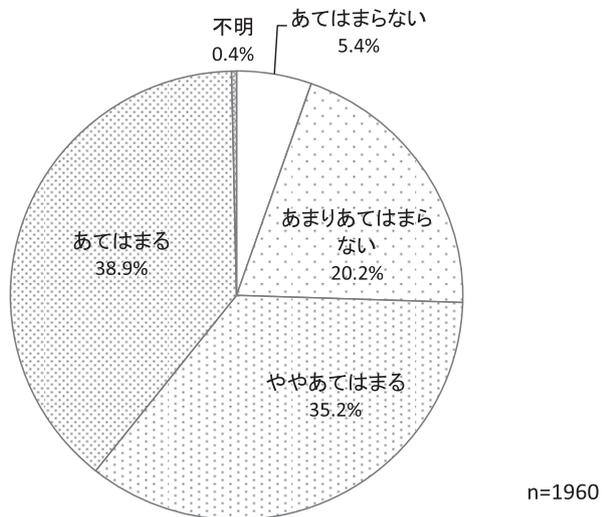


Figure 6-6 子育てについて相談できますか

7. 「放課後児童クラブの活動に対して意見や苦情を述べやすいですか」を尋ねたところ、ややあてはまる 41.6%、あてはまる 39.9%、あまりあてはまらない 15.6%、あてはまらない 2.6%、不明 0.3%と続いている。

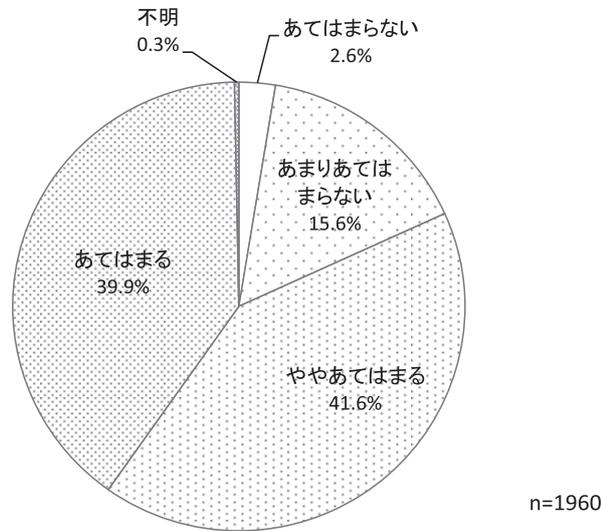


Figure 6-7 放課後児童クラブの活動に対して意見や苦情を述べやすいですか

8. 「保護者同士で親睦を深める機会」について尋ねたところ、あまりあてはまらない 35.1%、ややあてはまる 25.7%、あてはまる 14.5%、あてはまらない 24.5%であった。

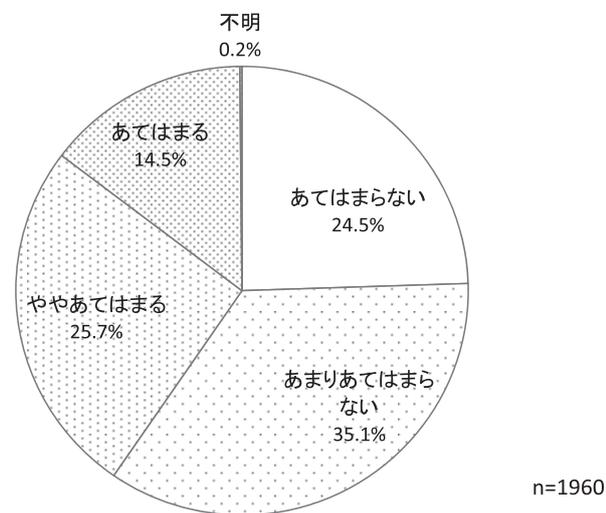


Figure 6-8 保護者同士で親睦を深める機会がありますか

9. 「保護者同士で子育てについて学ぶ機会」を尋ねたところ、あまりあてはまらない 28.8%、ややあてはまる 20.9%であった。ねたところ、あまりあてはまらない 42.0%、あては

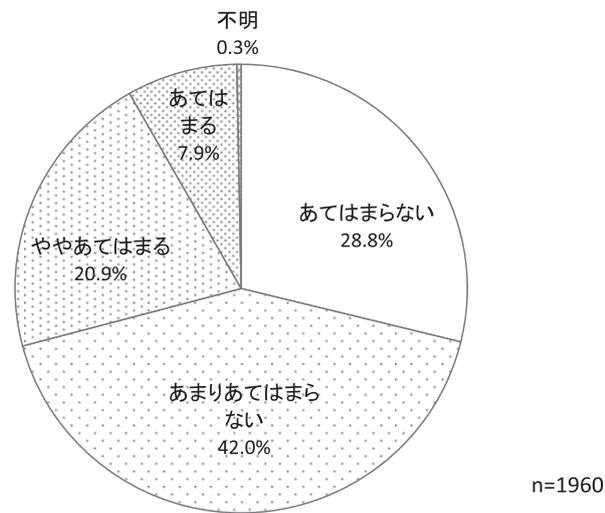


Figure 6-9 保護者同士で子育てについて学ぶ機会がありますか

10. 「地域住民との連携が図られているか」を尋ねたところ、ややあてはまる 37.2%、あまりあては

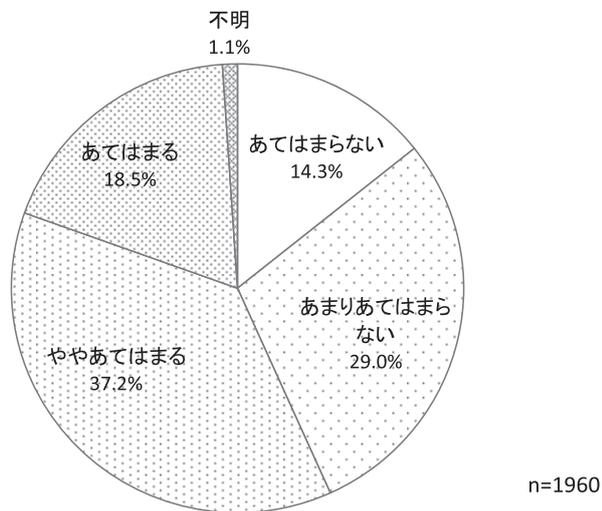


Figure 6-10 地域住民との連携が図られているか

11. 「身体を使う・頭を使う・手を使うなど、バランスのとれた遊びの提案がなされているか」を尋ねたところ、あてはまる 45.3%、ややあてはまる 39.5%、あまりあてはまらない 12.0%であった。

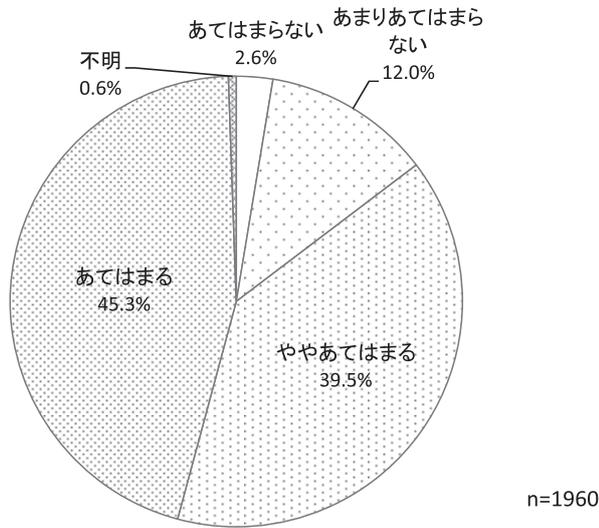


Figure 6-11 身体を使う・頭を使う・手を使うなど、バランスのとれた遊びの提案がなされているか

12. 「子どもの個性に応じた活動がされているか」を尋ねたところ、ややあてはまる 41.9%、あてはまる 41.4%、あまりあてはまらない 13.6%であった。

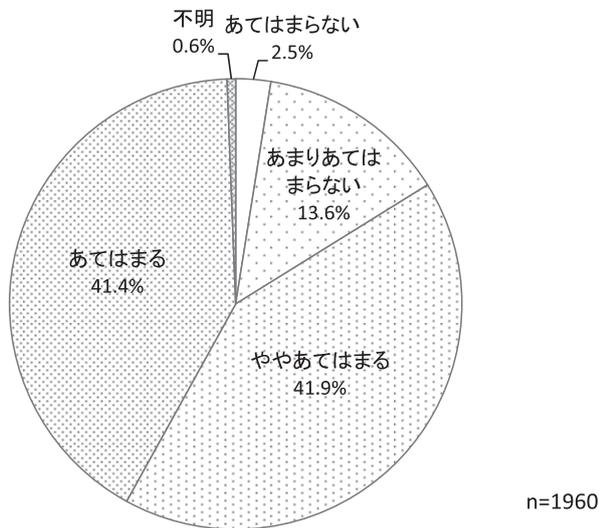


Figure 6-12 子どもの個性に応じた活動がされているか

13. 「他の子どもとの交流がなされているか」を尋ねたところ、あてはまる 59.7%、ややあてはまる 34.0%、あまりあてはまらない 4.7%であった。不明 0.6%、あてはまらない 1.0%

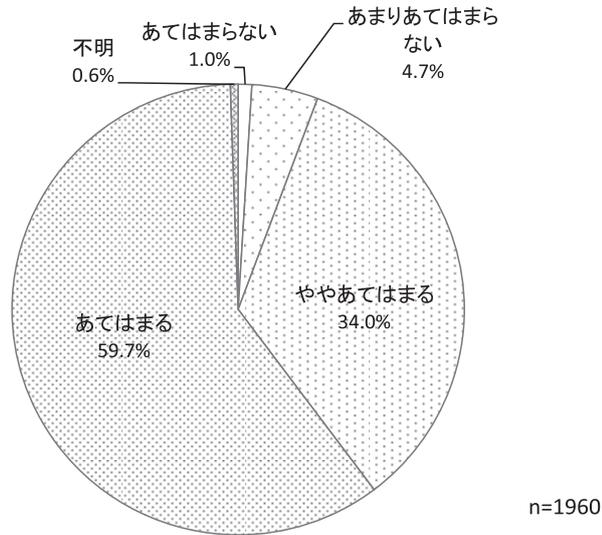


Figure 6-13 他の子どもとの交流がなされているか

14. 「日常的な礼儀作法（挨拶、整理整頓等）を身につけさせるための取り組みがなされているか」を尋ねたところ、あてはまる 49.1%、ややあてはまる 40.1%、あまりあてはまらない 8.9%であった。不明 0.4%、あてはまらない 1.5%

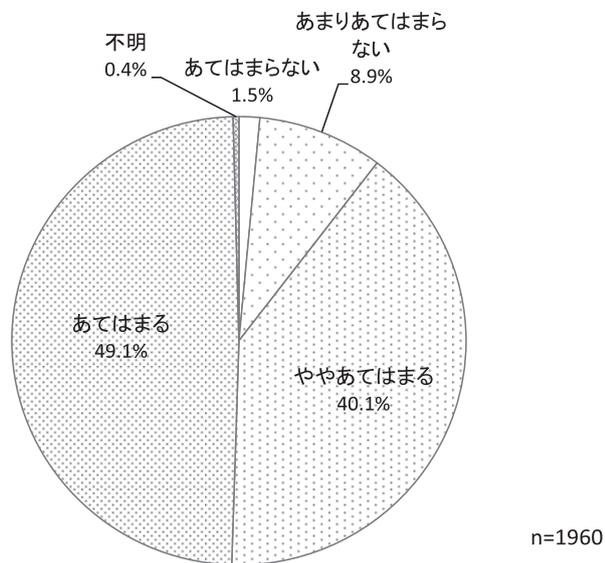


Figure 6-14 日常的な礼儀作法（挨拶、整理整頓等）を身につけさせるための取り組みがなされているか

15. 「コミュニケーション能力を豊かにするための取り組みがなされているか」を尋ねたところ、ややあてはまる 43.9%、あてはまる 37.4%、あまりあてはまらない 16.2%、あてはまらない 1.8%、不明 0.6%であった。

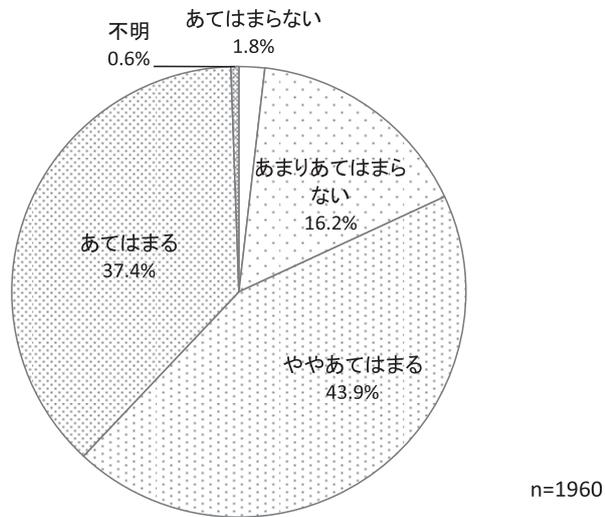


Figure 6-15 コミュニケーション能力を豊かにするための取り組みがなされているか

16. 「社会性を豊かにするための取り組みがなされているか」を尋ねたところ、ややあてはまる 43.6%、あてはまる 37.9%、あまりあてはまらない 15.9%、あてはまらない 2.0%、不明 0.7%であった。

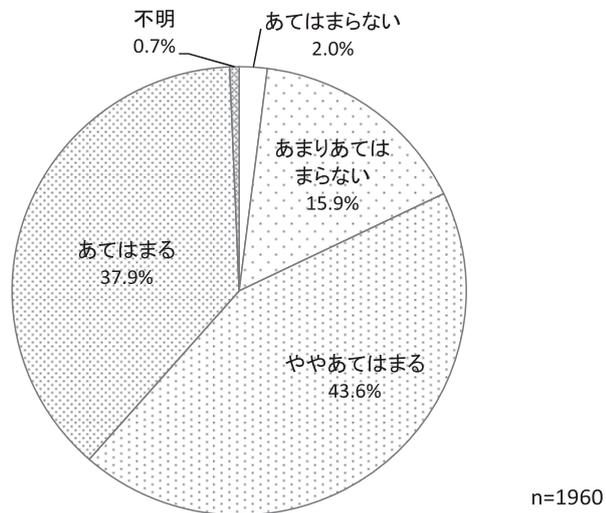


Figure 6-16 社会性を豊かにするための取り組みがなされているか

17. 「宿題をみてくれることはあるか」を尋ね 29.9%、あまりあてはまらない10.4%であった。たところ、あてはまる 53.8%、ややあてはまる

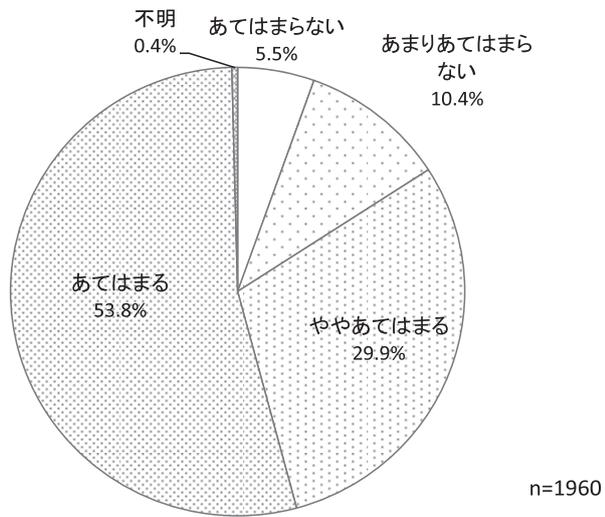


Figure 6-17 宿題をみてくれることはあるか

18. 「宿題以外の勉強を見てくれることはあるか」を尋ねたところ、ややあてはまる 31.7%、あてはまる 28.7%、あまりあてはまらない 25.2%、あてはまらない 13.1%、不明 1.3%であった。

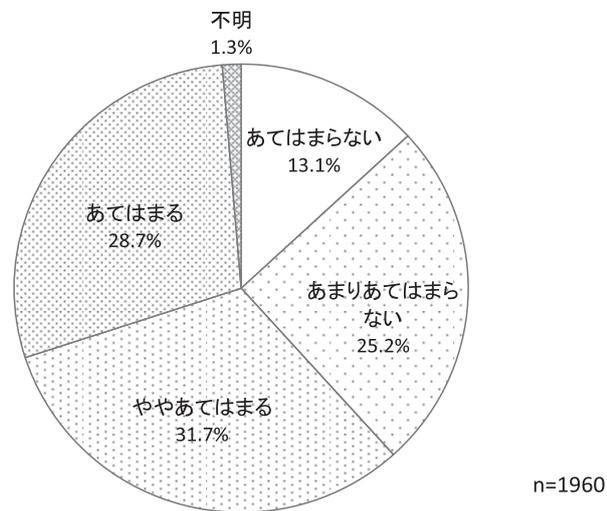


Figure 6-18 宿題以外の勉強を見てくれることはあるか

19.「トラブル時に適切な対応をしてくれるか」を尋ねたところ、あてはまる52.7%、ややあてはまる38.6%、あまりあてはまらない6.0%であった。

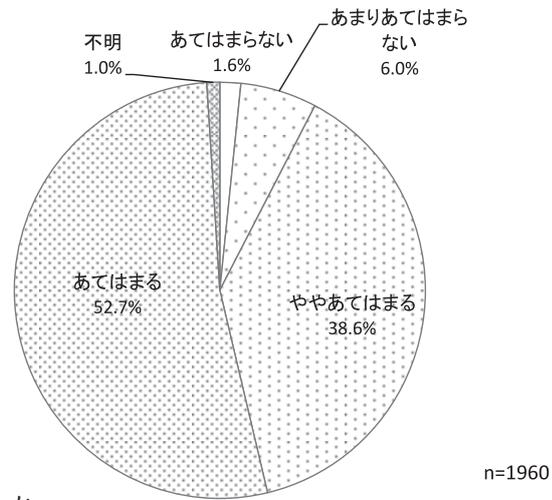


Figure 6-19 トラブル時に適切な対応をしてくれるか

A1 について、「普段、お子様が放課後児童クラブを利用して、お感じになられていることをお知らせください」の平均値と標準偏差（平均値で昇順）に Table 6-1 に示した。保護者の満足度の低かった上位5項目は、「9. 保護者同士で子育てについて学ぶ機会がありますか（平均値 2.08）」、「8. 保

護者同士で親睦を深める機会がありますか（平均値 2.30）」、「10. 地域住民との連携が図られていますか（平均値 2.60）」、「18. 宿題以外の勉強を見てくれることはありますか（2.77）」、「6. 子育てについて相談できますか（平均値 3.08）」であった。

Table 6-1

項目	n	平均値	標準偏差
9 保護者同士で子育てについて学ぶ機会がありますか	1954	2.08	0.90
8 保護者同士で親睦を深める機会がありますか	1957	2.30	1.00
10 地域住民との連携が図られていますか	1939	2.60	0.95
18 宿題以外の勉強を見てくれることはありますか	1934	2.77	1.01
6 子育てについて相談できますか	1953	3.08	0.90
5 子どもの様子を連絡帳やお便りなどで十分情報が伝えられていますか	1952	3.17	0.86
15 コミュニケーション能力を豊かにするための取り組みがなされていますか	1949	3.18	0.76
16 社会性を豊かにするための取り組みがなされていますか	1947	3.18	0.77
7 放課後児童クラブの活動に対して意見や苦情を述べやすいですか	1954	3.19	0.79
12 子どもの個性に応じた活動がされていますか	1948	3.23	0.78
2 放課後児童支援員等の名前と顔を覚えられましたか	1958	3.23	0.81
11 身体を使う・頭を使う・手を使うなど、バランスのとれた遊びの提案がなされていますか	1949	3.28	0.78
17 宿題をみってくれることはありますか	1952	3.33	0.87
14 日常的な礼儀作法（挨拶、整理整頓等）を身につけさせるための取り組みがなされていますか	1952	3.37	0.71
19 トラブル時に適切な対応をしてくれましたか	1940	3.44	0.68
13 他の子どもとの交流がなされていますか	1949	3.53	0.63
4 個人情報やプライバシーに配慮がなされていますか	1940	3.57	0.58
3 放課後児童支援員等は、明るく気持ちが良いですか	1953	3.69	0.53
1 安心して預けられますか	1955	3.77	0.45

選択肢は、あてはまる(4)、ややあてはまる(3)、あまりあてはまらない(2)、あてはまらない(1)として計算

A4では、主たる養育者（父親・母親等）の就業状況に関して、主たる養育者男性について尋ねたと

ころ、正社員 76.9%、非正規社員 1.4%、求職中 0.1%であった。

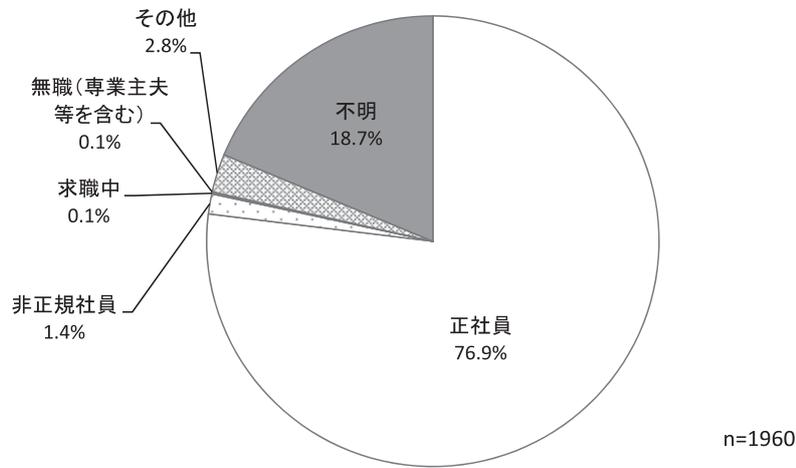


Figure 6-20 主たる養育者（父親・母親等）の就業状況

A4では、主たる養育者（父親・母親等）の就業状況に関して、主たる養育者女性について、正社員

51.5%、非正規社員 29.3%、無職（専業主夫等を含む）0.4%であった。

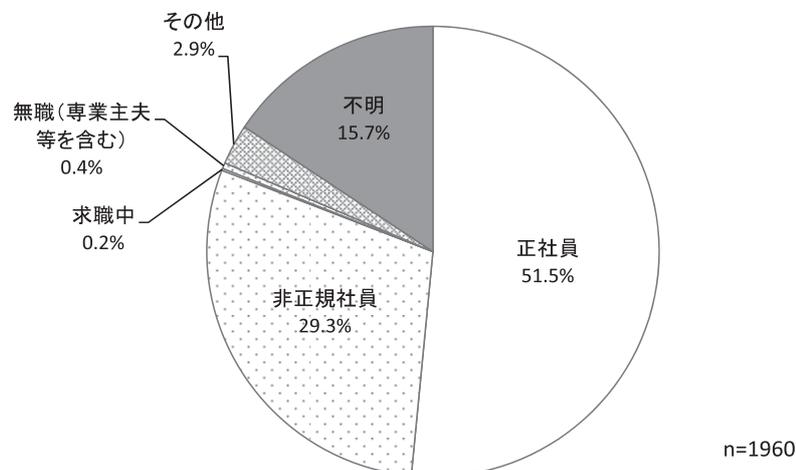


Figure 6-21 主たる養育者（父親・母親等）の就業状況

A5では、回答者の属性について尋ね、主たる養育者女性 83.3%、主たる養育者男性 14.4%、いない 0.1%、不明 2.2%となった。

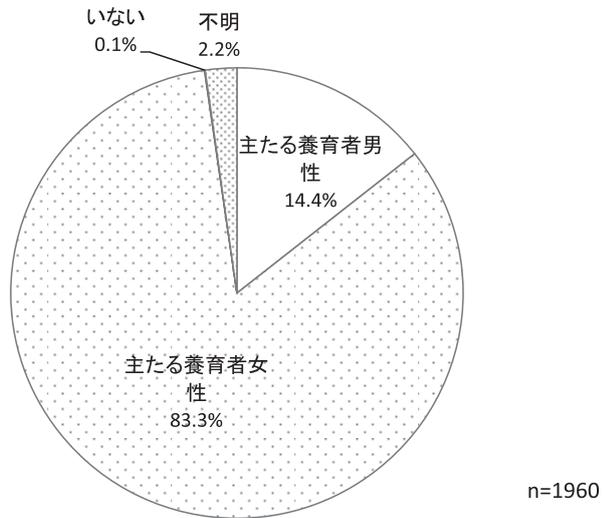


Figure 6-22 回答者の属性について

A6では、家族の方の保護者の方の年代について尋ねた。主たる養育者男性は、40代 48.7%、30代 24.7%、50代 5.6%と続いている。主たる養育者女

性では、40代 47.0%、30代 37.0%、50代 1.9%であった。

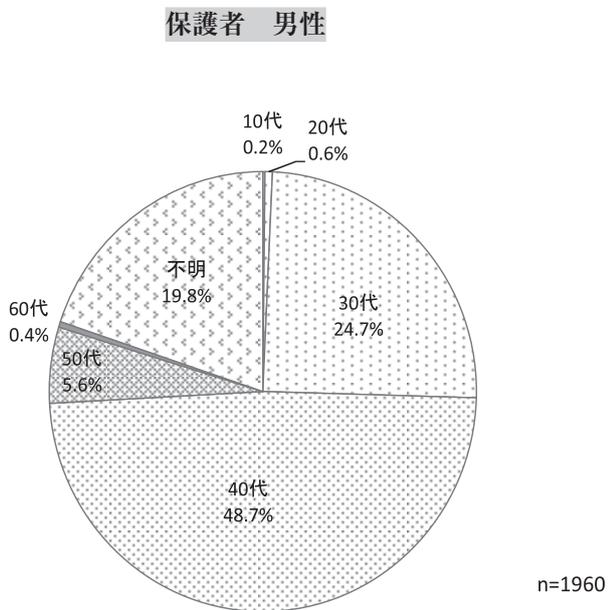


Figure 6-23 家族の方の保護者の方の年代 (主たる養育者男性)

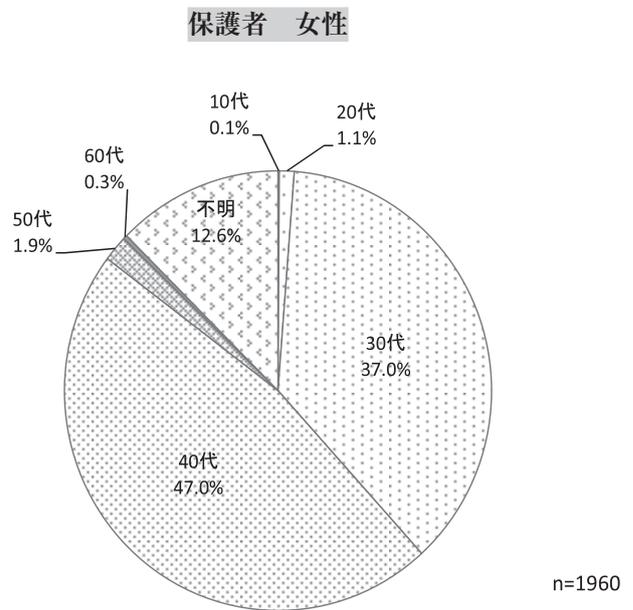


Figure 6-24 家族の方の保護者の方の年代 (主たる養育者女性)

6-1 まとめと考察

調査D票は児童クラブに通う児童の保護者を対象とした調査である。回答者の8割は女性であった(A5)。保護者の年代は男性、女性ともに30代から40代が多くを占めていた(A6)。職業は男女ともに正社員の割合が最も高かった(男性76.9%、女性51.5%)(A4)。放課後児童クラブを利用する児童の保護者は30代から40代で男女ともに正社員である人が多いようである。

放課後児童クラブに通わせている児童の学年、人数、性別の詳細を訪ねたが、質問文や回答欄の不備が原因で無回答が7割を超えた。ただ得られた回答から児童の性別は男女がおおよそ半々であることがわかった(A3)。

放課後児童クラブに対する評価(4件法)を聞いたところ、評価が低い5項目は、「9 保護者同士で子育てについて学ぶ機会がありますか(平均値2.08)」、「8 保護者同士で親睦を深める機会がありますか(平均値2.30)」、「10 地域住民との連携が図られていますか(平均値2.60)」、「18 宿題以外の勉強を見てくれることはありますか(平均値2.77)」、「6 子育てについて相談できますか(平均値3.08)」であった。保護者が子育てについて学ぶ機会の提供や子育てに関する相談、保護者同士の交流を深める機会の提供が求められる。

6-2 OJT実施頻度〈調査A〉と保護者の児童クラブに対する意識・評価〈調査D〉の関係について

OJT実施頻度が保護者の児童クラブに対する意識・評価を高めるのかについて詳細分析を行った。「A 9. 平成29年度に貴放課後児童クラブでは、従業員に対して、職場内の教育訓練(OJT)を実施

しましたか。」の「A10. ①頻度(年間)」〈調査A〉と因子分析にて抽出した保護者の児童クラブに対する意識・評価に関する3因子(児童クラブ総合評価、保護者間交流への評価、教育支援への評価)〈調査D〉との関係をSpearman順位相関係数にて検証し、無相関検定を適用した。

分析の結果、各項目間関係をTable 6-2-1に示した。OJT実施頻度と保護者の「保護者間交流への評価」に有意な正の相関が認められた。「保護者間交流への評価」は「9. 保護者同士で子育てについて学ぶ機会がありますか」、「8. 保護者同士で親睦を深める機会がありますか」、「10. 地域住民との連携が図られていますか」といった項目で構成される。OJT実施頻度が高い児童クラブほど、「保護者間交流への評価」が高い傾向にあった。OJT実施頻度が増えると、保護者間の交流が深まるかは不明であるが、Spearman順位相関係数は0.131で関係は弱かった。

6-3 放課後児童クラブの事業方針、研修状況〈調査A〉と保護者の児童クラブに対する意識・評価〈調査D〉の関係について

放課後児童クラブの事業方針や研修状況の保護者の児童クラブに対する意識・評価に与える影響について詳細分析を行った。

因子分析にて抽出した児童クラブの事業方針、研修状況に関する3因子(職員間の信頼協力度、人材育成力、方針目標浸透度)〈調査A〉と保護者の児童クラブに対する意識・評価に関する3因子(児童クラブ総合評価、保護者間交流への評価、教育支援への評価)〈調査D〉との関係をSpearman順位相関係数にて検証し、無相関検定を適用した。

Table 6-2-1 OJT実施頻度と保護者の児童クラブの評価との関係

A20 児童クラブの事業方針や現状、研修状況〈調査A〉	保護者の放課後児童クラブに対する意見・評価〈調査D〉								
	児童クラブ総合評価			保護者間交流への評価			教育支援への評価		
	n	ρ	P値	n	ρ	P値	n	ρ	P値
OJT年間実施頻度(年間回数)	341	-0.004	0.937	341	0.131	0.016	341	-0.059	0.278

ρ : Spearman順位相関係数

分析の結果、各項目間の関係を Table 6-3-1 に示した。児童クラブの「職員間の信頼協力度」と保護者の「児童クラブ総合評価」、「保護者間交流への評価」、「教育支援への評価」に有意な正の相関が認められた。また児童クラブの「人材育成力」は、保護者の「児童クラブ総合評価」、「保護者間交流への評価」と有意な正の相関が認められた。また児童クラ

ブの「方針目標浸透度」は「児童クラブ総合評価」、「保護者間交流への評価」と有意な正の相関が認められた。職員間の信頼関係構築や人材育成、方針や目標の徹底が保護者の児童クラブに対する評価に影響した結果と考えられる。

Table 6-3-1 児童クラブの組織力と保護者の児童クラブに対する評価の関係

A20 児童クラブの事業方針や現状、研修状況<調査A>	保護者の放課後児童クラブに対する意見・評価<調査D>								
	児童クラブ総合評価			保護者間交流への評価			教育支援への評価		
	n	ρ	P値	n	ρ	P値	n	ρ	P値
職員間の信頼協力度	705	0.208	<0.001	705	0.182	<0.001	705	0.199	<0.001
人材育成力	705	0.113	0.003	705	0.164	<0.001	705	0.015	0.688
方針目標浸透度	705	0.155	<0.001	705	0.183	<0.001	705	0.068	0.070

ρ : Spearman順位相関係数

具体的な活動内容について、「職員間の信頼協力度」と関係が強かった項目は、「14. 日常的な礼儀作法（挨拶、整理整頓等）を身につけさせるための取り組みがなされていますか」、「16. 社会性を豊かにするための取り組みがなされていますか」、「15. コミュニケーション能力を豊かにするための取り組みがなされていますか」である。「人材育成力」と関係が強かった項目は、「9. 保護者同士で子育てについて学ぶ機会がありますか」、「8. 保護者同士で親睦を深める機会がありますか」、「10. 地域住民との連携が図られていますか」である。「方針目標浸透度」と関係が強かった項目は、「17. 宿題をみてることはありますか」、「18. 宿題以外の勉強を見てくれることはありますか」である。これらの項目を中心に、活動の推進・実施の機会提供に努めることが、保護者の児童クラブへの評価を高めるために重要である。

6-4 保護者が放課後児童支援員等に求める専門性

ー自由記述の回答からー

静岡英和学院大学 玉井紀子

放課後児童支援員等の資質、専門性として特に大切だと思うことについての、自由記述の結果をまとめた。全 1960 回答が得られ、専門性についての言及から現状に満足していることへの感謝、あるいは放課後児童クラブへ要望など多岐にわたる回答が見られた。

1. 資格・免許について

具体的な資格や免許として、明記されたものとしては「教員免許」、「保育士」、「支援員」、「ソーシャルワーカー」、「心理士」、「看護師」であった。特に、「教員免許」は多かったが、全体の中では、これらの資格に言及した人は少数であった（Table 6-4-1）。

Table 6-4-1 放課後支援員等に求められる資格・免許

区分	資格・免許等	具体例
教育現場の経験者	・(小学校1種・2種等) 教員免許取得者 ・元教員 ・教育(児童心理)学 ・教育の分野の経験資格	・安心して子どもを預かるためには、支援員全員が、教員免許等の資格を持っているべき。定員オーバーの環境では、なおさらである。 ・「指導」という面でしっかりした方がいればいい ・今の学童クラブは、経験者(元学校の先生や保育士)がほとんどだと思うので、安心して預けられる。 ・学習の面などで各館に一人ずつなどいると、もっと良い。 ・小学校教育、子どもの心理のわかる専門性を求めます。 ・多数、多学年の児童を扱う意味で教職を持っている方が望ましく感じる。 ・主任以上は、教育関係の資格があると安心する。
保育現場の経験者	・保育士 ・幼稚園教諭	・資質は単純に分かるものではないので、教員免許、保育士などの資格があると安心。 ・今通っているクラブの先生は、幼稚園の先生でもあり、子どもたちへの接し方がとても優しい。 ・保育資格などをもち、「仕事として」子どもを見られる支援員を求める。 ・子どもを安心して頂けることのできる人柄。保育士さんのような資格があれば、なお良い。 ・小学校教員の資質より、保育士の資質の方が重要な気がする。低学年の利用が多い為。 ・保育士や社会福祉士・子育て経験者など知識がある方々にみてもらいたい気持ちがある。 ・児童クラブを単なる「託児所」や「塾」と考えず、「保育」としての専門性を持った方。 ・放課後、家庭のかわりに帰る場所なので、教育より保育者としての資質が大事。
支援員	・放課後児童支援員	・きちんとした教育や研修を受けている支援員の保育により保護者は安心して子供を預けられる事が大切。 ・児童支援員の知識(専門性)は必要だと思う。 ・支援員としての教育を受け、専門職としてのカリキュラムがあれば良いのではないかと考える。 ・支援員は子供の発達や学童期についてしっかり勉強し、資格をとってくれているというのは、親としてまず客観的な安心材料。
その他の資格	・ソーシャルワーカー ・心理士 ・看護師 ・障害を持った児童に対する資格	・ソーシャルワーカーや心理士など相談できる場があってもいい。 ・学校とも保育園とも違う、子供たちがリラックスした状態で通っているので、悩みなど相談に乗れるカウンセラー的な面も必要。 ・看護師などの専門知識を持った人を配置してほしい。 ・障害を持った児童に対する資格を取得しているなど、目に見えた資格取得者が居ることによってかなり安心感がある。 ・何か、スポーツ等でもかまわないので、資格を取得した先生にみて頂けたら嬉しい。
子育て経験者		・家庭でも学校でもない場所で子供と親との関係性を考慮し、支援を担う役割から、年配の(子育て経験がある、子育てを終えている)方に支援していただきたい。 ・子供の生活と学校のはざまにある学童には子育てを経験されたいりする先生方にて頂けると、有難い。子育ての先輩であり、エキスパートであって頂けると心強い。 ・子育て経験者もしくは学校現場に従事していた者であればより安心して保母も子どもも通えると思う。 ・子供がおり、子育てのことについて、子供の特性について理解でき、経験のある方を配置してほしい。 ・子育てをしてきた経験・医学の専門性があれば良いが、そこまで必要とは思わない。

また、資格があれば良い、あるに越したことはない、といった回答も見られ、あれば保護者として安心材料になるといった回答がいくつか見られた。これらの資格の言及については、放課後児童クラブに何を求めているか、どう捉えているかといった保護者の意向や要望が反映されていることが考えられる。より積極的な子どもとの関わりや子どもの付加的な成長を希望する保護者もいれば、安全で安心できる場所としての機能を第1に求める保護者など多様な保護者いることが、具体的な回答から伺える。「指導」的なことを求める場合は「教員免許」、子どもを安心してみてもらえることを求める場合は「保

育士」、ケガや病気へのトラブルに対応するための「看護師」、子どもや保護者がさまざまな相談ができる「ソーシャルワーカーや心理士」といったような記述となっていた。

2. 資質・人柄について

資格や免許、あるいは具体的な専門性よりも「子どもが好きである」、「子どもを愛してくれる」といった子どもに対する態度について言及している人は多く、Table 6-4-2 に示したように、一般的な人柄や礼儀を挙げている保護者が多数いた。「あたたかさ」や「優しさ」は子どもを受け入れる共感性や受容性の高さ、見守る姿勢等に触れている回答が多く、その一方で、「冷静な判断」や「厳しさ」といった子どもに対応する上で求められる資質について言及している回答があった。「明るさ」、「元気」などの回答も多く、対子どもの対人援助職であることの影響もあるが、保護者への対応の様子における現状からの気づきも含まれる「挨拶ができること」や「礼儀・マナー」といった回答もあった。その他にも「大きな声」、「子どもと遊びを楽しむバイタリティー」、「はつらつな態度」、「アイデア（子どもが楽しめる遊びの企画立案）」、「フットワークの軽さ」といった子どもを相手に様々な体験や生活を提供することを保護者が求めていること、子どもへの対応や子どもの反応、子どもの様子を通して放課後児童支援員等を見ていること、子どもが肯定的な感情で通所している場合には保護者の安心感につながっている様子が推察された。

保護者の中には、専門性を問う前に、上記のような放課後児童支援員等の態度を見ている人も多く、これらの人柄や資質によって放課後児童支援員等や放課後児童クラブに対する印象が変わってくるものが想定される。挨拶や言葉遣いなど、社会人としての礼儀やマナーで子どもや保護者との関係性や保護者の放課後児童支援員等や放課後児童クラブに対する捉え方に影響があるとすれば、採用時や初任者の間にこれらの基本的な研修を行うことは必要であると考えられる。個々の放課後児童支援員等の個性や放課後児童クラブ内での役割分担を超えて、多様なニーズや家庭的な背景を持つ保護者に対応していくためには、重要なことと言えるだろう。

3. 環境づくり

保護者が考える放課後児童クラブの放課後児童支援員等や放課後児童クラブそのものに求められる専門性として挙げていることとして、環境づくりに言及したものが比較的多く見られた (Table 6-4-2)。上述の調査でも、保護者が利用に際して普段感じていることとして「安心して預けられていますか?」については、最も肯定的回答が多かった。現状で多くの保護者が放課後児童クラブに対して「安心」を感じていることが推察され、これらを維持していくことが求められていることが自由記述の回答からも伺えた。

Table 6-4-2 求められる資質・人柄

カテゴリ	具体例
あたたかさ	<ul style="list-style-type: none"> ・私自身は、専門性より、人としての温かさ、常識、思いやりを持ち合わせてくれる支援員の方々が居てくださると安心する。 ・きちんと子供達と向き合ってくれるあたたかい人。しかる時はきびしく、子供達が安らげる場所であってほしい。
安定したメンタリティー	<ul style="list-style-type: none"> ・情緒が恒常的に安定していること ・コーチングとかアングーマネジメントとか、怒りなどたかぶった気持ちの逃がし方を知っている人は、本人にとっても子どもたちにとっても必要。 ・感情的にならず、学齢ごとの思い、男児・女児の特性等がある程度理解した上で、子供たちが心をひらける相手であってほしい。
おおらかさ・広い心	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものありのままを受け止めてくれる包容力、おおらかさ。 ・広い心と、時には厳しく、子供達を見守っていただけたらと思う。子供達が楽しく遊んだり、学んだりできていることが一番大切。 ・子どもたちの気持ちや行動を寛大な心で受け入れてくれるような方がいてくれると安心する。
優しさ・思いやり	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもへの思いやりとやさしさ。 ・優しく、時に厳しく、親のように全て受けとめてくれる事。 ・優しく見守るとともに間違えた事はきちんと指導してくれる、子供の気持ちを理解し一緒に悩んだりアドバイスしてくれる。
厳しさ	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちは自分中心なところがあるので、甘やかさず身近にいいお姉さん、お兄さんの人を見て欲しい。 ・優しく、時に厳しく、親のように全て受けとめてくれる事。
親しみやすさ・話しやすさ	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもからも大人からも愛される人間性を持つこと。 ・子供、保護者ともに相談しやすい人柄、トラブルが起きた時に物事、状況を整理し、素早く解決する能力。
責任感	<ul style="list-style-type: none"> ・命を預かっているという自覚。 ・責任感がつよく、真面目なこと。 ・教育や保育の専門性も必要とは思いますが、一番大切なのは危険を回避して頂くためにかく目をはなさない様、責任感のある人材が望まれる。
冷静な判断	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の事を第一に考え、冷静に判断出来る。 ・冷静であること、忍耐強いこと、命令で従わせるのではなく見守る姿勢であること、公平であること、誰に対しても注意が出来ることまたほめられること。子どもの創造力に寄り添える柔軟性が大切。体調に気づき、適切な処理（応急の）が出来るとは命を守る上で大切だと思う。 ・感情的にならず、学齢ごとの思い、男児・女児の特性等がある程度理解した上で、子供たちが心をひらける相手であってほしい。
バランス感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもへの優しさと協調性、バランス感覚が大切。 ・バランス感、見極め。 ・学校の先生よりは近く、親（身内）よりは遠い（一線を引いた関係）絶妙な距離感をとって子供と接することができること。
挨拶ができる・マナー	<ul style="list-style-type: none"> ・お迎え時など顔を合わせても挨拶をしない支援員さんがいる。挨拶はとても大事だと思う。 ・子どもに対してはわからないが、保護者と話をする時に表情が無く、冷たく感じる方がいるので、表情も含め、印象が良くなるよう、気をつけることも大切だと思う。 ・表情を含め、印象が良くなるよう気を付けること。
明るさ・元気・笑顔	<ul style="list-style-type: none"> ・明るい雰囲気、子ども達に安心感を与えてくれる人柄。 ・明るくニコニコしている人は気持ちがいい。保護者に対しても愛想がなく、あいさつもなく、声が小さい人はこちらも気分が良いものではない。 ・明るさと大きな声での対応。 ・こどもに笑顔で接してくれること。

Table 6-4-3 求められる環境・環境作り

カテゴリ	具体例
<p>安心</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して預けることができる、環境づくりをしてくれる。(物的にも人的にも) ・子どもたちが安全に過ごすことができるよう、職員の目が行き届くこと、保護者が安心して預けられるという環境づくり。 ・学校とは別で、放課後を過ごすようになるので、子どもが安心して楽しく過ごせることが大切。 ・帰宅してくる我が子を家で迎えてあげられないので、代わりに迎えてくださる先生方の対応で子ども達が安心できるような環境が大切。 ・子ども達が大勢いてトラブル・ケガなくうまく調整していたとき心身ともに安心してすごせるようにしていただければいいと思う。 ・「子どもの健全な育成と遊び及び生活の支援」である児童クラブの特性を、理解し、精一杯取り組んでいる方だと安心できる。
<p>子どもの居場所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の居場所作り、よりよい環境を作ろうとしてくれる姿勢。 ・「放課後の居場所である。」ということを一に考えていただけることが大切であると思う。 ・学校ではなく、家でもない子供達の居場所の一つとして、子供達が安心して過ごせる場所であってほしいと思う。
<p>安全</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に安心して過ごすことができる環境整備。 ・お迎えに行くまで、安全な環境作りをしてもらえたらと思う。 ・子どもが他の利用している子ども達とルールを守り、けがなく楽しく過ごせるよう指導すること。 ・子どもを預かっているという意識をもち、安全性の確保や子どもの個性の尊重など。 ・子供が元気良く、安全にあそべる、死角のない空間もありがたい。 ・事件や事故に巻き込まれない様、保護者としては利用料を支払っているの、そこに関しては最低限責任を持ってくださるといいと思う。
<p>居心地の良さ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活の中でも、1人1人が個性を尊重し、居心地の良い環境づくりができる状況判断力を持つことも大切だと思う。 ・家庭と同じような感覚で、子どもが居られる環境づくり。 ・家庭的な雰囲気の中で子どもがその子らしく安心して居ることのできるような配慮ができる。 ・学校でもなく、家でもない、素の出る場所。 ・学校から家庭へ戻る間に利用するので気分的にひと息つけるような場所であってほしいと考えている。 ・心配な事や、相談したい事を話しやすくする雰囲気作り。 ・放課後の家庭の代わりとして、子どもがリラックスして、楽しく安心して過ごせることが一番重要だと思われる。 ・共働き世帯、核家族化、治安悪化等の要因で預けている保護者が多いと思う。又、児童は下校後、遊びや心を休ませる場であると思う。親子が安心して預けられる配慮、環境作りが大切であり、何より、指導の前に児童を大切にほしい。

また、子どもが放課後に比較的長い時間を過ごす場所であることから、「安心」、「安全」はもちろんのこと、「子どもの居場所」としての機能や「居心地のいい場所」として機能することを保護者は望んでおり、そのための環境づくりができることを放課後児童支援員等や放課後児童クラブそのものに求めていることが示された。「安心」や「安全」は、物理的な環境整備への配慮や人的な環境としても子どもがいる場所として確保されることが求められていると言える。回答から事故や病気への対応、災害時の対応、トラブル時への対応などの知識に関する研修を積み重ね、配慮すべき点などを押さえた支援が必要であるとともに、マニュアルの整備、死角や備品等の管理や事故防止のための環境チェックは、研修だけでなく日頃から訓練を行うなどによって具体的に身に付けて備えておく必要があるだろう。また、保護者へ管理職等から説明を行って周知しておくことも保護者を安心させる材料となると考えられる。放課後児童クラブによって、建物の構造や敷地、死角、備品の状態などは異なっている。職場外研修だけでなく、個々の放課後児童クラブ独自で内部研修をすることで、放課後児童支援員等の危機管理や衛生管理の感度を上げることが必要となるだろう。実際に、放課後児童クラブに対する調査（A票）において、「事故・ケガの予防と対応力」は、採用時の求める専門性で上位となっている。

事故やトラブルが起こった場合には、冷静な判断や対応が求められるが、これには個々の放課後児童支援員等の知識や力量だけでなく、放課後児童支援員等の配置人数や子どもの人数との適性な人員確保も必要である。加えて、そのための予算も必要である。後述するように、「保護者や家庭に求められる対応」として保護者への連絡や報告がなされることを指摘した回答がいくつか見られた。子どもの変化に気づいて病気やケガなどにすばやく適切な対応を行い、事実を口頭で説明することで安心し信頼関係が得られること、逆にこれらの報告がないことで不満や不信感を持つことが回答結果から伺える。保護者へ誰が、どのような連絡手段で、どこまでどう伝

えるのかといった放課後児童支援員等の間での情報共有や連携、役割分担も大切な業務であり、これらの研修も望まれる。

また、保護者の回答から、学校とは違った子どもが過ごす場所として考えられていることが伺える。「ホッとする場所」、「家庭のような場所」といった居心地の良さや子どもが休息できる場所としての機能を求めている保護者もいる。放課後児童クラブの運営指針や地域で求められている役割の放課後児童支援員等の理解、あるいは放課後児童支援員等同士の間での共通理解も必要であると考えられる。

4. 求められている知識

これまでの放課後児童クラブに対する調査（A票）や自治体に対する調査（B票）での結果から、実際に行われている研修内容として「障害のある児童（配慮を必要とする）の理解や支援に関すること」や「児童の発達」などが挙げられている。保護者が求める知識としてもこれらの項目が挙げられていた（Table 6-44）。

また、これらのカテゴリは、A票において「採用時の求める専門性」として挙げている項目と同様なものもあり（e.g.、「児童の発達」、「アレルギーに関する知識」、「子どもの病気」、「ケガ等の応急時の対応」など）、基本的な知識として放課後児童クラブの管理職や保護者からも求められものであることが推察された。子どもの権利擁護の観点からも、先述した安心で安全で居心地の良い場所として機能させるためにも放課後児童支援員等が身に付けておく必要がある。加えて、「子どもの心の理解」、「心理」といった記述も散見され、子どもの悩みや相談事への対応、カウンセリング的な対応を求めることが含まれていた。「教育」カテゴリの中には、宿題や勉強への対応、子どもへの指導や声掛けの仕方などが含まれるが、加えて集団生活であることを踏まえながらも、個々の子どもへの細やかな対応を求められている保護者もいることが示された。

Table 6-4-4 求められている知識

カテゴリ	具体例
子どもの発達	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間での子どもの成長・発達に関する理解・専門的な知識と技術。 ・子どもたちの心と体の成長を理解している指導員の確保が必要。 ・「遊び場」としてだけでなく福祉や学童期の専門知識を持った人がいて欲しい。 ・子どもの育ちの専門的知識（学校とは異なる生き方の観点。勉学の知識ではない）。 ・学年ごとの成長・発達を理解していること。
食育・アレルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・「おやつ」の選び方の工夫。食育・むし歯の感点から考えて欲しい。 ・おやつを提供するので食物アレルギー事故防止のために子どもには食べさせては、触れさせてはいけない食物があるという事を知ってほしい。 ・おやつ、昼食の提供時の衛生面。 ・子どもの生活全般（食や身体のこと）等、保育する上での最低限の最新の知識。
遊び・レクリエーション	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な“遊び”に対する知識と技術。 ・みんなで遊べる遊びをたくさん知っている。 ・色々な遊びを知っていること。（それも一人ではなく数人で遊ぶもの）が大切。
発達障害・療育	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害（グレーゾーン含）に対する理解。 ・支援の必要な子に関する知識。・特性のある子への合理的配慮。 ・特別な配慮が必要な子どもに対しての、専門的な知識と技術。 ・発達障害や知的障害などの障害に関しても専門的な知識を勉強してもらえたら、もっと良くなると思う（主体の先生だけでなくパートさんなども、年に1～2回でも良いので講習等）。
教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育と保育、両方の知識があること。伝え方、聞き方を学んでいること。 ・特別支援が必要とされない子にもある問題行動に注視し、声かけできるか。 ・学校での授業の延長として、幅広い知識。・小学校との連携が取れる知識がある方。 ・宿題や学習に向かわせる為の指導に加えて、遊びを含めて集団生活の内容を豊かにしてくれる高い意識や知識・経験 ・トラブルになった際、相手の保護者に理解してもらえるような説明ができるくらいの知識はある方が良い。 ・子どもとの関わり方（呼び方、言葉づかい等友達ではない） ・子供の扱い方（遊びや興味を引く内容の理解、注意する時のポイント）を知っていること。
安全・健康	<ul style="list-style-type: none"> ・健康、安全面での知識、講習を受けている。 ・子どもの病気に対しての知識。 ・発達や特性、緊急時の対応。 ・救急法を定期的に学んでいる。・けが等の応急処置ができる事。 ・遊具などの安全性の把握。 ・子供同士の遊びや運動の中での安全面やケガなどに対応する知識。
子どもの心理・カウンセリング	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングに近い知識 ・子供の心理や臨床心理的知識 ・児童心理学、発達心理学の基本的な知識を有していること。 ・思春期に入る子どもたちの心理を学んでいただいているといいなと思う。

5. 求められる活動・保護者の思い

具体的に、放課後児童クラブ内で求められている活動についての記述をまとめたものを Table 6-4-5 に示した。「遊びやレクリエーション」の記述では、遊びや行事等を通して子どもたちに多くの体験や経験を積ませたい保護者の思いが見て取れた。一方で、「学習・勉強」といった指導や対応へのニーズもあり、

放課後児童クラブから帰宅後に保護者が宿題を見ることが時間的にも難しいなどの事情が伺えた。また、「しつけ・指導」に含まれる回答には、基本的な対人関係のあり方や礼儀やマナーなど、特に言葉遣いや挨拶への言及は、複数の回答があった。集団生活であること、異年齢の子どもたちが在籍していることを活かした社会性を身に付ける対応を望んでいる

Table 6-4-5 求められる活動・保護者の思い

カテゴリ	具体例
遊び・レクリエーション	<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーションを楽しく考えてくれる人。 ・季節、伝統行事に精通し教え伝える事が出来る。 ・他の学年と交流出来る遊びの企画。 ・子供たちが仲間をつくれるよう働きかけ、行事や遊びを開催していただけること。 ・DVDやテレビばかりみさせて、放課後を過ごすのではなく、体を動かす遊びや、工作、読書、友達とのゲーム（トランプ、ボードゲーム等）その時々で考えてやってくれさと、とてもありがたいので、そういったプランを持って実行してくれる力。 ・個性・特性に見合ったあそび、活動等の提案。・日本の伝承を大切に、それを子どもたちに伝えていく。 ・手作りのものを作成したり、工夫した遊びをして頂ける所。 ・レクリエーションを取り入れる企画力。・安全面に気をつけた遊びの提供。
学習・勉強	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強面も少しでも見てくれると助かると思う。 ・いじめ問題等の小さいうちからの（低学年にも理解できる）人権教育。 ・学習の時間が短かすぎて（長くてもたないということもあるのですが…）、宿題を結局家でやり、子供との楽しい時間が平日はなかなか過ごせない。学習面も専門的に指導してもらえたらありがたい。塾に行かせるにも、1人で行かせる事等の不安がある。 ・保育だけではなく、学習につながる取組ができるよう広い視野をもってもらいたい。 ・宿題以外の勉強が支援出来る体制作り。
しつけ・指導	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人一人の個性を大切にしつつ、集団行動等が出来るよう指導する。 ・礼儀作法や整理整頓等、指導してくれること。・言葉づかい指導。 ・小学校内での取り組み（あいさつ、ルールを守るなど）を同じように励行する。 ・挨拶や規律といった基本的なことを教えられること。 ・家庭で過ごす時間が少ない分社会規範等についても指導していただくと助かります。（本来親がしつけるところであるのですが…） ・学校生活とは異なる、1年生～6年生の集団生活を過ごしていく中で「教育」ではなくしつけ部分も担っていくこと。 ・規律もきちんと身につけてほしい。集団でいるから必要なことだと思う。 ・挨拶、目上の方への話し方、同級生や下級生への接し方など集団で行動をともにする際の指導 ・きちんとした言葉づかいや挨拶、思いやりのある心を教えてくれる人が良い。 ・子ども同士のコミュニケーション作り。
身体を動かす	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスを発散したり、体を動かす機会を作ってほしい。 ・子どもの体をうごかすこと、かかわり、成長とをうながす提案、やサポート。 ・逆立ちやなわとびなどを教わって、学校の授業でも苦手意識なく取り組むことができ感謝している。また、畑で収穫したものを調理しておやつに食べたりといった食育も生活とつながっている。そういった活動ができる人だと良いと思う。
保護者の思い	<ul style="list-style-type: none"> ・のびのびとした教育・子供の個性を伸ばしてほしい。 ・子ども同志、指導員先生方（大人）との付き合い方を学び、人として大切な、協調性、社会性、主体性など『人間力』を育み、成長できる場であって欲しい。 ・自由時間と勉強や作業の時間はきちんとわけて指導。・友達とだから出来る事に取組んでほしい。 ・普段、親が教えてあげられないような勉強や遊びを教えて欲しい。 ・多感な時期の子が多いと思うので、男の子については男性の支援員がいてくれることは非常に有意義だと感じる。 ・たくさん子供がいる中でも、一人一人になるべく注意を配ってほしい。ケンカなどトラブルがあった場合は、その時の状況で決めつけず、1人1人の言い分をしっかりと聞きとり、子供が納得のいく解決を導いてほしい。

ことが伺える。集団での子どもたちに対する対応は、個別性を考慮しつつ集団力動を理解し、子どもたちが対人関係を学ぶ機会とすることができる。子どもの年齢に応じた発達を理解し、いかに、これらの機会を作れるか、活かせる活動内容なども具体例や取り組み事例などを盛り込み、研修で取り上げるべきことと考えられる。

6. 求められる子どもに対する放課後児童支援員等の態度・意識

上記の活動内容を行う上での放課後児童支援員等の態度や意識について言及した回答を Table 6-4-6 にまとめた。これらの回答を見ると、保護者への子どもに対する思いや配慮を求める感情、特に自身の子どもに対する個別性の高いそれぞれの思いの強さが感じられる。また、保護者の多様性が伺え、これらの保護者の特性、親や保護者としての感情に対する配慮も放課後児童支援員等には求められていると言える。子どもへの対応について言及されているが、家庭環境（e.g., ひとり親、就労状況、居住形態）や、保護者の年齢や子育て経験、きょうだいの有無、親自身の教育環境なども考慮しつつ、公平で平等な対応が必要であり、一人の放課後児童支援員等だけでは担えないことも含まれている。放課後児童クラブの組織として対応していくことや、放課後児童支援員等の立場や役割を利用した対応を心掛けること、保護者の年齢や現在の状況など、生涯発達の視点も放課後児童支援員等として考慮する必要性が伺える。

7. 求められる能力

保護者が資質、人柄とは別に、放課後児童クラブの放課後児童支援員等として求められる能力として挙げていたものを Table 6-4-7 にまとめた。「○○力」、「○○できる」などの記述があったものである。これらは、上記の「放課後児童支援員等に求められる態度や意識」を具現化するために必要な力量が挙げられている。特に子どもへの対応では、「自主性、主体性の重視」、「個別性の重視」や「共感的理解」

といった態度や意識を持って活動に当たるために必要な「一人一人の子どもの個性を捉える力」や「個性を伸ばすことができる」といった内容のものや、「集団生活を活かす」や「年齢に応じた対応」を行うための「集団生活を教育できる力量」や「子どもの様子に気が付けること」といったものなど幅広い内容が含まれていた。これらは、「安心」や「安全」、「居心地の良さ」という環境づくりのための能力でもあることが伺え、放課後児童支援員等として放課後児童クラブで子どもが「安心」して過ごすことができるとは、どういうことか、あるいは「居心地のいい場所」とはどういった場所なのかについて、研修等を通して個々の放課後児童支援員等が考え見直し修正していく作業が求められていると考えられる。

Table 6-4-6 求められる子どもに対する放課後移動支援員等の態度・意識

カテゴリ	具体例
自主性・主体性の重視	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の自主性を大切にしつつ、手助けをしてくれる。 ・子どもが主体的に活動ができるように、導いていただきたい。 ・遊び、諸活動を通じての自主性、社会性を培う援助の補助。 ・子どもたちが異学年と過ごす中で、自主性や社会性をサポートしながら伸ばす力を身に付けさせること。
集団生活を活かした対応	<ul style="list-style-type: none"> ・集団活動の中から、社会性を育む機会を多くつくること。 ・勉強だけではなく社会に向けての指導をしてくれること。 ・活動を通して協調性など学ばせる事。・社会性、協調性を指導してくれる人間。 ・学校の先生とは違う子供たちとの交流の中で、社会性を見につけさせてくれること。 ・集団のルールやきまりを徹底させ、子どもたちが安心して気持ち良く過ごせるようにする。 ・全体のバランスがとれるように集団を調整。 ・子供が遊びや勉強、などの活動を通じてコミュニケーション能力など社会性を身につけていける様な支援。
個別性の重視	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの可能性を見出してくれること。・子供の個人差への配慮。 ・子ども一人一人の個性を見ぬく力、伸ばしてあげられる様な関わり方。 ・学校の先生とは違うので、注意するばかりでなく、長所を育てて頂ける方が大切だと思う。 ・児童の個性を見極め集団生活・行動を通して社会性・礼儀作法・コミュニケーション能力を指導していただきたい。 ・いい所を見つけて、ほめてくれたり、子どもに合った役割を付与してくれるので、クラブを通じても子供が成長できるので感謝している。 ・子供、それぞれの個性を把握し、その子に合わせたアプローチを実践してくれること。 ・個々の子どもへの共感的理解。・個性を活かした育成。 ・子どもたち1人1人をよく見て、個性やその時々々の状況を把握しようと努める態度・親しみを持ち、誠実な大人として1人1人に向き合おうとする態度。 ・子どものタイプをみて、タイプに合った声かけ。・子どもを一人の人間として尊敬して関わること。 ・子ども同士の関係性（異性、異学年間）への適切な介入。
課題解決力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちがもめたりした時に、解決する為にどうすれば良いかを自分達で考えられるように導く力。 ・子ども同志で考え、智慧を出し合う環境作り。
対人スキルの形成	<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔であいさつすると、お互い気持ちが良い事を自然に教えられる事つまり、人と人との関わり方を普通の生活の中で、良きお手本として見せて欲しい。 ・友達と仲良く遊ぶことができるためのサポートを行う。・特定の子が孤立しない配慮。 ・孤立する子がないようにコミュニケーションをとる方法を知っている。・子供同士（上下関係）のつき合い方、将来の人付き合い方。 ・学校の先生とは違った、日常生活で必要な人のかかわりなども学童生活の中で教えて頂けたらと思う。 ・子供間のトラブルや人間関係にうまく対処してほしいです。ただ「処理」をするのではなく、子供達がちょっと成長できる「アドバイス」をしてくれるとうれしい。 ・他人（大人、子どもともに）との関わり方を学習・体験させること。（学習や運動、体の使い方等の体験も大切だが、親と離れて自分達だけでの他者との関わり方を学ぶ場となると良いと思う） ・子ども同士のトラブルを早めに対処し、次の日にもちこさない様仲間作りさせる。 ・1年生から6年生の子供達が同じ環境の中で過ごすことのできる時間なのでそのチャンスを、勉強する時、遊びの時に、大きい子が小さい子の面倒を見てもらうように指導する機会を作る。
動機づけ	<ul style="list-style-type: none"> ・活動意欲や態度の形成の手助け。・子どもの創造性に寄り添える柔軟性がある。 ・新しい事に挑戦する気持ちを持たせてあげたり発想を広げる工夫。 ・子どもが子どもらしく成長する上での子ども同士、大人とのコミュニケーションができる場にあること、又、失敗したり、何度もやり直したり、自分で又は友だちと心から味わえる充実感や、存在を認められ、安心していただける居場所になる様な環境を整えることができる事。 ・人間関係（協調性、優しさ、気づかい）が自然に出来る様な取り組み、人を大事にする、心を豊かにする、会話を通してのコミュニケーションが自然にできる様な環境を大切にしたい。

Table 6-4-6 求められる子どもに対する放課後児童支援員等の態度・意識（続き）

カテゴリ	具体例
配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・特に配慮が必要な子とそうでない子が、同じ場で過ごす際の接し方。 ・保育園等からのかんきょうの変化でストレスを感じているであろう子供への対応。 ・子供のユーモアな感情・行動を大切にしたい。・子どもの体調の変化に気づくこと。 ・子供のちょっとした異変に気付ける方だと、いじめとか虐待を早く見つけられるかもしれないので、そういう行動パターンなども、少し勉強している。 ・働く親がゆっくり聞けない子どもの話を代って聞いてくれたり、親が見落した子どものSOSに気付いたり。保育園のように、親と子に寄り添う心のサポーター的な資質と専門性。 ・高学年が、下の面倒を見て、低学年は上の学年を見習うことが出来るメリットがある一方で、学年を超えたトラブルの際、どうしても高学年ががまんを強いられる場面も多い。高学年といっても、小学生であり、その不慢やストレスの解消はなかなか出来ないため、そのあたりのフォローにも専門性を感じる。 ・きまりを押しつけすぎないこと。・子どもが存分に甘えられること、あたたかく迎えてくれること。 ・自己肯定感を傷つけない話し方。態度で接する事。 ・問題がある子に関わっている時間が多いようで、他の子と相対している事が少ないように感じる。聞きたいことが聞けるように。 ・児童の話し相手になる、一緒に遊ぶといった「心理面へのケア」が最も大切なのではないかと思う。 ・危い危いと注意ばかりではなく、楽しく過ごせるようにある程度自由にさせてくれる。
自立支援	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども自身が自立していけるよう、将来は自分の力で生きていく基礎を学童の上級生、下級生のたて割りの関係の中で築いていけるよう仕向けていくこと。 ・社会に出た時に必要と思われる（礼儀、ルール）を、地域の大人の代表として教える。
適切な指導	<ul style="list-style-type: none"> ・だめな時に怒るのではなく叱ってくれること。 ・時間があまりない親に代って、子どもに注意してほしい。 ・学校とは違い、少し甘えが出てしまう子どもたちに対してもきちんと指導すること。 ・ダメなときはしっかり叱り、良いときはたくさん褒めてくれること。
公平性・平等	<ul style="list-style-type: none"> ・支援の必要な子、コミュニケーションが苦手な子など色々ですが、どんな子にも平等・公平な対応をしてくれる事が大切。 ・1人1人を平等に見れる。・皆に平等であること。・親と子どもに対する対応を変えない。 ・どんな時でも平等に物事をみて判断し的確な助言と指導が出来る事。 ・決めつけずに子どもの話を聞くことができる。・公平、平等に子どもに接することができること。
年齢に応じた対応	<ul style="list-style-type: none"> ・学年や子どもの性格に合わせて適切な関わり方ができることがシンプルだが、大切。 ・各学年の年齢に応じた言葉かけ。 ・異年齢の児童、それぞれの生活習慣を理解し、個々の様子に合った対応が出来る事。 ・異年齢の子どもが集まる中で、それぞれの個を互いに認め合えるような声掛け、働きかけ。 ・異年齢の子どもたちが一緒に活動する際に、発達段階に応じた対応・指導が重要。またそれを全児童に伝わるように説明する力。 ・一律の対応ではなく、低学年、中学年、高学年に対応したきめ細やかな指導が良いと思う。 ・異学年の集団の生活で得られる大切な事を教えてもらいたい。
共感的理解	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の話にきちんと耳をかたむけられ、聞いてくれる。・子供の気持ちによりそう。 ・子どもが安心して、学校での出来事などを話せる。 ・子どもの話をしっかりと順番に（行ったこと）きく姿勢は身につけてほしい。 ・大人の一方的意見ではなく、子どもの目線と一緒にたつこと。 ・こども達1人1人のありのままを受け止め、評価や比較をすることなく、こどもによりそうことができること。 ・しかり方。大きな声をだすだけでなく、本人（子ども）たちの意見などよく聞き理解してほしい。 ・子供独特の世界を理解して、サポートする事でしようか。低学年はまだ夢の中に少しいるような所がある。 ・子どもの想いをくみとり、表出してくれる手助けをしてくれる。
子どもに対する思い	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが好き、子どもと接することが好きであること。 ・子どもたちへの愛情があること。・大人のように子どもを扱わない人。 ・子供を成長させようとする気持ちを持つ（きびしさと優しさ）。 ・上からの目線ではなく、同じ立場に立って、子どもから信頼される先生。 ・何かあった時に手を差し伸べてあげられる気持ち。

Table 6-4-7 求められる能力

カテゴリ	具体例
遊び・レクリエーション	<ul style="list-style-type: none"> ・“遊び”で子供を育てる能力があること。・あそびの指導の技術。 ・ファシリテーション等の技術の習得。・子どもと遊べる能力。 ・遊びや会など楽しいことを発想したり企画する力。・行事の企画力（子どもが楽しめる工夫） ・学習に導く生活、予算の使い方、プレゼントのあげ方（ほうそうの仕方）。
子どもへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・1人ひとりの子どもの個性をとらえた上で様々な活動の中でその子に必要な支援ができる。 ・これからは、高い指導力が示せるような方が望ましい。・集団をまとめる力。 ・子どもの指導方法、話を聞く力、工作力など。・子ども達を統率する能力。 ・集団の中で子どもたちが育ちあう様に適切に働きかける力。 ・子ども一人一人を丁寧にみる意識の高さと一人一人に適した言葉かけや支援ができる力、そして明るく子どもを前向きに考えられるよう、過ごせるよう導く力。 ・個々の性格などを読みとってその子に合った接し方が出来る。・子どもと関係性を作る力、チャンネルを合わせる力。 ・子どもの集団生活を教育できる力量。・子どもと正面から向きあえる。・子供の社会性、自主性を信じて見守り、子供の力を引き出す能力を持っていること。 ・まちがえてしまった時、トラブルがおきた時に、子どもにきちんと説明し、諭してくれる方。 ・いづらさを感じる子どもがいないように気の強い子どもを抑えて気の弱い子どもをサポートできる能力。
観察・気づき	<ul style="list-style-type: none"> ・体調観察、細やかな声かけ見守りで安心して過ごせるようサポートする力。 ・子どもの気もちをくみとり、仲間同士で過ごすよう支援してくれる力。・個人の心情を読みとる力をつけてほしい。 ・トラブル時、子どもから事実を引きだしたりすること。又、トラブルにならなくても、口に出せない困ったことなど察していただけること。 ・子供の間関係をよく観察しいじめや暴力行為を防ぎ、トラブルを解決させること。 ・子供の様子、体調等が普段と違う時、すぐ気付いたことを伝えてもらえることはすごく助かっている。 ・いじめられている子や、なかまはずれにされている子を見逃さないで、解決できる様な環境作り。 ・いろいろな学年の子が通う為、上の子が下の子をいじめたりしないか、仲良くしているかななどの周りを見る力。 ・子供から発せられる言動をうのみにせず、その言動の背景に何かあるのかを見出だす力。 ・子どもの表情や行動から、変化や様子に気がつけること。
論理性・冷静さ	<ul style="list-style-type: none"> ・共感も大事だが教育という面で理論的に説明できること。 ・子供の情操を理解し、親が感情的になる部分を冷静に対応してくれる力。 ・集団生活において、様々な特徴・特性を持つ人たちとの関わり方を、伝えられるスキル。 ・児童育成計画の立案、実施力。・リスク管理、対策がきちんとできること。
トラブル対応・解決力	<ul style="list-style-type: none"> ・トラブル時の対応の仕方。・危機管理能力。トラブル時の解決力。 ・危険や非常事態が発生した時のフォローアップができること。 ・子どもどうしのトラブルなどうまく解決に導く指導力。・トラブル発生時（ケガ、ケンカ等）の適応力。 ・視野を広く見る事ができ、異常時、問題児に対応する能力。 ・問題が起きた時に、子どもに伝わる言葉や方法で、伝えられる力。 ・トラブル時では、迅速な対応ができる体制であることを希望する。 ・トラブルになった時にそれぞれ子供の口より意見を聞いて頂きたい。うまく話ができない子もいると思うので上手に話を聞いて頂きたい。
安全への対処	<ul style="list-style-type: none"> ・ケガや事故があった時の、最低限の対応力。 ・安全への配慮と緊急時の対応、判断力（地震や体調不良時の対応）。 ・危険を予知して、それを回避する対策をできる力。災害時、保護者へ引き渡すまで、子どもの安全を守る力。 ・ケガや病気の治療や応急処置に対する知識と、緊急時に対応できる柔軟性。 ・万が一、不慮の事故が発生した場合に、応急手当のできる支援員さんがいて下さると、大変心強い。 ・子どもがけがをした時などや災害があった場合の避難の仕方など、知っておく事は大切だと思う。 ・持病のある子（アレルギーやてんかん等）の対応・学童内でのトラブル（ケガ等）時の緊急性の高い場合の対応。 ・危機管理（災害、犯罪、衛生、事故等に対する）。・安全管理に対する認識と十分な知識を持っている。
年齢に応じた対応	<ul style="list-style-type: none"> ・小学1年～6年までの思春期を含む発達の心身の成長について理解し、個人又は集団を指導する能力が必要である。 ・生活の面倒をみるだけでなく、年齢にあわせた教育的な側面もあると思うのでそういった能力が大切。 ・年代に応じた、子どもの発達に有効なあそびの提供。・低学年だけでなく、高学年の子供にもよりそえる人。 ・1～6年生と年代が広いので、各学年に応じた対応の仕方を知っている。 ・異学年の子どもたちを安心、安全に指導、見守ることのできる資質。
保護者との関わり方	<ul style="list-style-type: none"> ・親とコミュニケーションをとることができる。 ・親への挨拶や対応ができる。・保護者への対応力。

8. 求められる組織としての支援

個々の放課後児童支援員等の知識や力量、態度だけでなく、放課後児童クラブにおける支援としての記述も見られた（Table 6-4-8）。「対応の一貫性」や「情報共有」、「連携」に言及した回答があり、「連携」では、放課後児童支援員等同士、学校、保護者、地域との連携が含まれていた。その他、保護者会や保護者同士の交流の場の設定を望む声や、放課後児童支援員等同士の教育体制などの回答もあった。保護者からの意見は、現状を踏まえての感想や要望が含まれていると考えられる。後述するように、国や自治体、運営側への要望として人員確保や適切な放課後児童支援員等の数、研修の確保といった記述もあることから、保護者自身が子どもを預ける側として感じている危惧や懸念については耳を傾ける必要があるだろう。放課後児童支援員等としては、現状を回すことや、他の放課後児童クラブの様子や実情が分からなければ、これがスタンダードだと考えることもあり得る。特に、初任者などは目の前の対応に追われて教育（研修）を受ける機会が十分に確保されないまま、即戦力として対応することが求められる可能性もある。個々の専門性や資質を伸ばすための研修を企画し、実施することと同時に組織として、人（専門性を持った放課後児童支援員等）をどう育てていくのか、運営、管理者側が考えて行く必要があると言えるだろう。

また、連携が必要と言われるが、なぜ必要なのか、どのような形で行うのかその体制づくりは放課後児童クラブ内で検討する余地があるだろう。保護者との連携では、放課後児童支援員等がどのように保護者に活動内容や子どもの様子を伝えるか、どのように家庭や学校での子どもの様子を保護者から聞き取るかといった対応方法をロールプレイなどによって研修することも可能だろう。一方で、学校や地域、自治体との子どもを中心とした連携、協働はどのように具現化が可能なのか、子どもの最善の利益のためにはどのような情報共有と連携が必要となるのか、放課後児童クラブのみの研修ではなく、学校側、自治体も巻き込んでの研修があってもよいと考えら

れる。それぞれの保護者が思う連携とは何かここでは不明であるが、連携を望む保護者の声があるということ、連携が必要と言われる組織で考えて行く必要があるのではないだろうか。

9. 保護者・家庭への対応・支援

保護者や家庭への配慮や支援についても求める声があった（Table 6-4-9）。保護者として「安心感・サポート」を得たいと考えていることが伺え、「相談に乗って欲しい」、「子育てのアドバイスを頂きたい」といった保護者自身への対応を求める意見もあった。また、子どもへの対応も含めた「公平性・平等性」を求める声も挙げられたことから、他の子どもとわが子への対応の違いや、保護者による対応の違いなどを敏感に感じ取っている保護者がいることが伺える。あるいは、子どもから聞くこともあり得る。放課後児童支援員等はそのつもりがなくとも、保護者自身が被害的に捉えたり、対応の違いを感じてしまうことはあるだろう。子どもに対する調査（C票）でも子どもの訴えとして挙がっていた。個別性の対応を重視したつもりが、不公平感を抱かせることもあるかもしれない。保護者への対応は、保育や学校現場でも重要な放課後児童支援員等の業務として挙げられ、その対応を求められている。特に、多かった要望が「丁寧な報告」である。これは、子どもや保護者の「安心」にも繋がり、放課後児童支援員等自身が自らの業務を保護者に示す機会ともなる。これらの保護者対応の意義や、管理職から伝えた方がよいこと、子どもと保護者への対応を別の放課後児童支援員等が行うなどの方法も含めた具体的な事例を用いた研修も行うことができるだろう。また、実際に相談やアドバイスを求めるというよりも、「家庭環境の理解」や「働く親への理解」といった配慮や気づきを求めている回答もあり、子どもへの対応同様、保護者に対しても個別性を考慮することが求められていると考えられる。

Table 6-4-8 求められる組織としての支援

カテゴリ	具体例
指導・対応の一貫性	<ul style="list-style-type: none"> ・支援員の考えや指導法が統一されている。 ・その子、その子に対し、接し方や対処の仕方等を先生全員が周知、統一されていること。 ・支援員の先生方が会議などで、出来事を共有したり、トラブルへの対処方針を合わせたりすることも大切。 ・支援員さん同士の連携をはかり、同じ方向性を持って、子供たちに接して欲しい。 ・全ての支援員さんが、同じ知識、意識レベルをもっていることが特に大切であると思う。
情報の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の共有（子ども達の様子、個性、その日の出来事） ・保護者からの連絡事項を先生みんなで周知する。 ・1人1人の子供の性格というか特性を理解して、情報を共有してほしい。先生によって対応がちがうと困る。 ・いろいろな子どもの事例とかを研修で勉強していただいたり、先生方の打ち合わせでこまめに相談したり、情報交換をされているようで、こういうことの積み重ねで専門性は高まっていくのかなと思う。 ・常に支援員同士連携し、子供達の性格（個性）を共有しあう。 ・職員間の共通理解（情報共有）。・子供のトラブル、ケガ等に対して、保護者や他の職員と情報の共有ができる。
対応力	<ul style="list-style-type: none"> ・すばやい対応（その日、その場で置きたことに対する対応、必要に応じた話し合い、声掛け、連絡） ・災害時のような行動をするのか、先生皆様が把握し子供に指示出来るよう徹底して頂きたい。 ・学校と家庭の橋渡し役として、子どもの様子をよく観察して、異変に気づく。
保護者との連携・交流	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方と連絡を取り合える環境（情報交換の場）をもてたら、嬉しい。 ・学区・地域の中にある学童として保護者や学校との連携に努めることができるかどうか。 ・お迎え時など少しの事でも保護者と会話（学童での様子や家・学校のこと）。 ・子供の変化に気がついて親と連携がとれること。 ・トラブルが起きた時、子供同士で解決させたのち、先生から指導をして頂きその後、保護者に連絡するという、連携が大切。家で子供からいっぽうきな話だと、わからない。 ・家庭との連携をし、情報を共有できる方。・保護者会のようなもの。 ・学校のように、年に1回くらいは、支援員の先生と、子どもの様子等についてゆっくりお話をする時間などがあれば、今以上に子どもや親、支援員の方にとって育成クラブの存在意義が強くなると思う。
学校・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学校との連携もって欲しい。・学校側との信頼関係。 ・保護者と地域をつなぐ役割をもつこと。 ・保護者との橋渡しの役割でもあり、学校との連携は必要になってくる。支援員さんが担当の先生へ伝えたり、学校と保護者の間をとりもつような役割が大切。 ・学校や地域の自治会、保護者と連携していく力。 ・小学校教員との情報交換を行い、児童に対して連携した関わりができてるとよいと思う。例えばこの子にはこういった所が注意必要だから学童でも注意してみていくなど。
職員同士の繋がり	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決（トラブル対応）に向けて、同職場の指導員と連携を取り、しっかりと解決していける。 ・指導員不足もありチームワークがとても大切。・職員間の学び合い。 ・次世代を担う新指導員をきちんと教育し、指導できる。 ・経験の多い先生が、若い先生におしえていく事、そして経験の少ない先生は、大きく成長すると思う。

10. 国や自治体への対策の要望

Table 6-4-10 は、放課後児童支援員等に求める専門性の記述と併記あるいは、その他の意見として記載があったものである。子どもを預ける際の子どもの人数や、建物や部屋の状態、新聞やニュース等で

の報道から、学童保育体制そのものの改善だけでなく、「環境の改善」や「放課後児童支援員数等の増加」、「放課後児童支援員等の待遇改善」の記載が見られた。放課後児童クラブによっては、少人数の放課後児童支援員等で支援を行っている状況が伺え、子ども

もたちの人数に見合った部屋の大きさや、遊びや学習に適した部屋、遊び場などが確保できていない状況が伺える。個々の放課後児童支援員等の研修への参加による努力や研鑽、放課後児童クラブでの工夫や体制によって改善できる点はあるかと思われるが、放課後児童支援員等の確保といった根本的な問題やそれに伴う予算の確保は、現状を鑑みて保護者が感じていることが反映されていると考えられる。子どもを安心して預けられる環境であるかを吟味した際に、入所することを躊躇する可能性も考えられる。一方で、保護者が働いている中で、特に低学年や配慮を要する子どもたちが放課後、家庭に帰って過ごすことができるかを考えた時に、放課後児童クラブの存在は子どもたちや保護者にとって重要な選択肢の一つとなるだろう。これらの結果から、放課後児童クラブを利用している保護者の意見、ニーズ、要望が多岐にわたっていることが示された。個々の放課後児童支援員等の研修体制を見直すだけでなく、それらを支える支援体制を構築していくことが必要であると考えられる。

Table 6-4-9 求められる保護者・家庭への対応・支援

カテゴリ	具体例
安心感・サポート	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てや学校や学童であった保護者の悩みを聞いて下さり、一緒に考えて下さる安心する対応。 ・子どもだけでなく保護者のことも気にかけてくれる。 ・働いている親がなかなかやりきれない部分をサポートして頂きたい。 ・保護者の抱えている不安を払拭してくれること。・子供と保護者のパイプ役。 ・職員の方もみなさん明るく、子どもの様子を口答で伝えて下さり、安心して預けさせてもらっている。
信頼関係	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と支援員との信頼関係。・保護者と良好な関係を築く。 ・一人ひとりの子どもの状況を把握し、保護者との連携、保護者からの信頼。 ・保護者との対応により信頼関係が構築されるため、普段からのコミュニケーションが必要。 ・子ども・保護者・職員同士・学校の教員等・クラブ運営に関わる人たちと信頼関係を築くことのできる人材。
相談・アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・親にとって相談しやすい存在であること。・子育てについての相談をうけてくれる力。 ・様々な環境にある家庭を理解し、必要があれば適切な支援の提案ができる知識を持っていること。 ・子供、保護者共に相談できる環境。・保ご者への子育て相談等の対応。 ・一人一人の子どもの特性を把握し、保護者に何かアドバイス等をする事。 ・問題に対する子育ての知識やアドバイス等があれば保護者と情報の共有が出来る。 ・学童クラブでの子どもの様子、良い所・悪い所を保護者に伝えて、より成長できるようなアドバイスをもらえると嬉しい。 ・育児経験があり、母親の相談にも応じてくれること。
平等性・公平性	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との関係をなるべく平等に ・親がクレームをつけてきたときに誠意をもって、納得いくように対応してくれること。
丁寧な報告	<ul style="list-style-type: none"> ・トラブルがあった場合、保護者に報告すること。・トラブルがあった時に、すぐに相談したり、報告する事。 ・子ども同士のトラブル時などにおける状況判断、把握と、そのことを保護者に伝えるアウトプット能力。 ・子供のことをしっかりと観ていただき、一日の様子などを伝えていただいたときは、ほっとする。 ・預けている間の子供の行動や経験を保護者に適切に伝える力。親子に寄り添える力。 ・親の知らない所でおきている事などは、親が責任を持って知る事が大切と考えている。 ・子供がどのように過ごしているのか誰かとトラブルを起こしていないか等、様子がフィードバックされるともっと良い。 ・学童での子供の様子を伝えたり、変わったことやトラブルがあった時にどう対応したかを保護者に話し、預ける側が不安にならないようしっかりと連携を図っていくことが大切だと思う。 ・子供同士のトラブルがあった時、「お互いさま」なのですが、両方の子の保護者に状況を伝えてもらえたらもっと良かった。 ・迎えに行った時等の短時間で学童での様子を教えて頂くことで、学校とは違う我が子の様子がわかる。
配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・働く親への理解。・子どもひとりずつの家庭状況に合わせた支援。 ・子供達、それぞれの発達、家庭状況などを理解して対応していく事。 ・保護者に対しては、誠意を持って対応し、保護者の悩みや相談に寄り添える。 ・子どもの様子を連絡する際など、保護者に寄り添った対応をお願いしたい。 ・社会性、人間関係づくりなどの子ども支援したり、保護者の気持ち（ニーズ）に応えられる力。 ・子どもや家庭の問題をキャッチし、適切に対応する力。
対話力	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者とのスムーズなコミュニケーションが取れること。 ・必要なら親にも意見・意志を伝えることができる。・正しい報告。 ・子供を取り巻く関係者（親、学校の先生、支援員）とのコミュニケーション能力が高い人。 ・様々な保護者との交流など…特に保護者とのやりとりが円滑にこなせる人が重要。 ・先生となかなか話す機会もないので、子どもだけではなく親子共々コミュニケーションがとれることが大切。

Table 6-4-10 国や自治体への対策の要望

カテゴリ	具体例
アドバイザーの確保	発達障害を持つ児童が増えている。学習する機会や専門性を学ぶために、現場を見てもらえるアドバイザーの確保が必要だと思う。支援員のみ負担を増やすのではなく、他機関との連携により相談・支援方法のアドバイスを得られるようにすべきだと思う。
安心できるシステムの確立	低学年の場合、確実に児童クラブに行った心配になる時があるので、安心できるシステムを確立してほしい。
ガイドラインの作成	教えや学びを目的としているのであれば、それなりの教養や子供の活動力についていける体力がある人が望ましいと思う。“良質”を求めるのであれば国が統一したガイドラインを作るべき。市町村によって大きなばらつきがあるのも気になる。預け方、金銭面、指導員の人選等。
学童保育対策	国は保育所など未就学童対策は政策を考えているようですが、学童保育の児童期の対策についても国全体として考えて欲しい（各自治体まかせにしない対策を！）。
環境の改善（部屋の増加）	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちをクールダウンさせる時や、体調が悪くなった時などに、もう1部屋あれば教育も、もう少しやりやすくなるのでは？と思う。 ・専門性以前に環境等の改善が求められると思う。トイレが専用でなかったり、面積が狭い（100人こえている）など子供が過ごしやすい環境を望む。 ・1年～3年までの部屋にギュウギュウに先生1～2人で時間を過ごしているのを見るとクラブをやめようとも思う。 ・小さな部屋で大人で1日過ごし、それを毎日過ごすのは、大人、支援員でも、疲れ辛く、すぐストレスにもなる。する事を制限されると更に。
基準の見直し	学童保育の「従うべき基準」が「参酌すべき基準」に変更されてしまおう。無資格の方が保育をする可能性があるとおそらく保育の質が下がり子供達が安全で安心して過ごせなくなってしまうのではないかと考える。子供の人数は減っているかもしれませんが、入所児童は年々増えており、専門性のある人に子供を任せたいと思う。研修等をきちんと受けしっかりとした方に長く勤めて頂きたい。
クラブ間の格差の是正	・児童クラブによって差があると思う。現在、子どもの様子や特性等は様々である。それに対応できる専門性の高い支援員は必要だと思う。児童理解等も進めていって個々に応じた支援をお願いしたい。
研修の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に他の児童館や他市との研修に参加する機会があること。 ・他の学童を利用する方の話をきくと不満も多く聞かれるので、子供たちに接するうえでの専門性は必要不可欠だと思う。また、研修を行うことは大事だと思うとともに、参加しやすい環境にすることも大切だと思う。
現場の声を聞いてほしい	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事で、無資格でも支援員になれるような事が書かれてありましたが、決して簡単な職業ではないと思う。もっと現場の声に耳をかたむけて欲しい。 ・指導員不足は深刻ですがチームワークがあり、指導員が前向きなクラブは保護者も協力し、今ある環境で上手く行かせていると思う。指導員の前向きな意見、提案が生かされる仕組みを作って欲しい。
公設公営	教育を求めるのであれば、公設民営ではなく、公設公営を望む。保護者の運営（主に働いている保護者）で、運営しているのに、支援員への資質の教育性までを求めるのはハードルが高すぎる。
支援員数の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・学童の先生の数を増やし、国や自治体が改善に手を差しのべてほしい。 ・親は普段の児童クラブの様子がわからないので、なんとも言えない。専門性を求めるより、支援員数を増やし、全員に目が行き届くようにしてほしい。 ・子どもの人数が多く、支援員人数が不足しているように思われる。 ・異年齢での関わりが多くなる中で、交流や体験ができる一方、遊びの種類や規模の違いによる危険性もあることから、職員の配置人数の確保も大切